ノートルダム清心女子大学

地域連携・SDGs 推進センター実績報告書

[2023（令和5）年度]

ノートルダム清心女子大学
地域連携・SDGs推進センター

目　　次

センター長ご挨拶…… 1

Ⅰ．センターの概要と新しい取り組み…… 2

１．地域連携・SDGs 推進センターの概要 …… 2

２．新しい取り組みについて…… 5

（１）「清心コラボ」 …… 5

（２）包括的連携協定の締結　…… 7

Ⅱ．地域連携活動の一覧と報告…… 8

１．地域連携活動実績一覧…… 8

（１）連携協定一覧　…… 8

（２）連携協定に基づく活動実績一覧（締結順）…… 8

２．地域連携活動報告（一部）…… 16

（１）各連携協定に基づく活動（締結順）…… 16

【NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山との包括的連携協定に基づく活動】 …… 16

2023 年度「国際塾」の報告 …… 16

【岡山市との包括的連携協定に基づく活動：学生イノベーションチャレンジ】…… 18

[Seishin Global Seminar (Dr. Fast's Seminar)]

―Kibiji Sustainable Tourism Promotion Plan―…… 18

[ツボジョーワールド探検隊]

―日本初の岡山市「ユネスコ創造都市ネットワーク」〈文学〉分野加盟に貢献― …… 20

[ノートルダム清心女子大学人文地理学教室（森ゼミ）]

―用水路転落事故の実態と防止に向けたリーフレット作成と配布―…… 24

[おかやまモーモースイーツ部]

―若者視点による岡山市観光地化とプロモーション活動の推進―…… 26

【岡山市との包括的連携協定に基づく活動：その他】…… 28

2023 年度文学によるまちづくり協働事業：日韓文化・文学交流報告 …… 28

文学と児童福祉との連携事業～よむよむふむふむプロジェクト～活動報告 …… 29

岡山市協働推進員研修会での講演「学生との協働の進め方」…… 30

【総社市との包括的連携協定に基づく活動】…… 31

総社市インターンシップ参加報告 …… 31

「チュッピーのオーダーメイド衣装で総社市特産品を PR ！」報告 …… 32

2024 そうじゃ吉備路マラソンボランティアを終えて …… 35

【天満屋グループとの包括的連携協定に基づく活動】…… 36
天満屋連携：商品開発の活動報告（雑貨班）…… 36
天満屋との連携活動報告（食品班）…… 37
（２）その他の連携活動に関する報告 …… 38
社会福祉士課程における地域連携活動 …… 38
Ⅲ．SDGs 推進活動の一覧と報告 …… 40
１．SDGs 推進活動実績一覧 …… 40
（１）「SDGs 理解」推進に関する活動実績一覧 …… 40
（２）SDGs の達成に関する活動実績一覧 …… 41
２．SDGs 推進活動報告（一部） …… 44
（１）「SDGs 理解」推進に関する活動 …… 44
『LIVIKA』への掲載：本学の SDGs の取り組みについて …… 44
SDGs・サステナビリティ意識調査　結果レポート …… 45
SDGs 講演「本来の SDGs とは－エコロジーとジェンダーから考える」…… 46
国際連合関連：UNU グローバル・セミナー　体験談 …… 47
国際連合関連：UNU グローバル・セミナーを終えて …… 48
国際連合関連：「国連 SDGs 入門」の受講感想：課外活動も交えて …… 49
（２）SDGs の達成に関する活動 …… 50
女子サッカーチーム岡山湯郷 Belle との連携 …… 50
JAF 岡山支部との連携活動（第１段階）
～ヘルメット着用促進を髪型からアプローチする～ …… 51
消費者ネットおかやまとの連携活動報告書 …… 53
「倉敷駅前商店街　宵山祭」活動報告 …… 54
Ⅳ．資料編…… 55
１．地域連携・SDGs 推進活動に関する新聞記事・雑誌記事 …… 55
２．ナミュール・ノートルダム修道女会国連オフィス・ブログ SDGs 記事（訳） …… 60
３．2023 年度 生涯学習センター「清心 felice」講座の記録…… 64
４．2023 年度 産学連携センター事業の記録（一部）…… 65

センター長ご挨拶

地域連携・SDGs 推進センター長　濱西栄司

地域連携・SDGs 推進センターは、ノートルダム清心女子大学の建学の精神に基づき、地域への貢献および「持続可能な開発目標」（SDGs）の達成を推進することを目的として 2019 年に設立されました。これまで岡山市、NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山（インターキッズ）、株式会社山陽新聞社、早島町、和気町、岡山市農業協同組合（JA 岡山）、総社市との間で包括連携協定を結び（前身の地域連携センター（2014 年設立）時代のものを含む）、またその他のさまざまな団体と連携して、活動を行ってまいりました。本センターが大切にしていることは、地域連携活動の「質」をより高めること（とくに連携を双方向的なものにすること）、そして SDGs 推進をグローカルに展開していくこと（岡山・瀬戸内から関西・関東、国際機関、世界へ）です。

2023 年度の大きな変化は、まず学年・学科を超えて学生が協力する全学的な社会連携活動（清心コラボ）を本格的に開始したことです。総社市の政策提言型インターンシップ、チュッピー衣裳デザイン、そうじゃ吉備路マラソンボランティア、㈱天満屋との商品企画活動、そして一般社団法人岡山湯郷 Belle、一般社団法人 JAF（日本自動車連盟）岡山支部、倉敷商店街振興連盟、NPO 法人消費者ネットおかやまとの連携事業も新たに開始しました。また天満屋グループ、株式会社両備システムズ、赤磐市との間で、新たに包括連携協力の協定も締結させていただきました――企業グループとの協定は初、株式会社との協定は山陽新聞社に次いで 2 例目、そして地方公共団体との協定は 5 例目です。

企業グループや株式会社との協定締結、一般社団法人との連携事業が可能となった背景の一つには、本センターと産学連携センターの連携強化があります。それまで本センターは、＜企業・産業界以外の＞外部組織との教育・学生活動上の連携を担当し、産学連携センターは、企業・産業界との＜研究面＞での連携を担当してきましたので、＜企業・産業界と連携して、教育や学生活動を行う活動＞については、両センターの活動の隙間に落ちてしまうことが多くありました。ただそのような活動への学生のニーズは日々大きくなっていましたので、両センターの連携を強化することで（センター長を一人が兼ねることも含め）、その活動を大きく強化することができました。各活動の詳細は、活動報告をごらんください。

本報告書は、2023 年度の本センターの活動実績を記したものです。他にも各教員・学生、各学科はさまざまなかたちで地域連携や SDGs 推進の活動をおこなっていますので、それらは大学 HP の学科ブログ等をご覧ください。本報告書の前半は「地域連携」、後半は「SDGs 推進」に充てていますが、区分はあくまでも便宜的なものです。また報告書の最後には、生涯学習センターと産学連携センターの活動記録も掲載しています。なお、本報告書中に山陽新聞社の記事が転載されていますが、これは同社との包括連携協定にもとづいて特別に許可されているものです。同社のご配慮に心から感謝いたします。

Ⅰ．センターの概要と新しい取り組み

１．地域連携・SDGs 推進センターの概要

設立の趣旨

ノートルダム清心女子大学地域連携・SDGs 推進センターは、前身の地域連携センターを拡充し、総合的な地域貢献活動と「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals：SDGs) の達成、及び関連学術研究・人材育成に取り組むことを目的としている。

活動のポリシー

・地域連携ポリシー:岡山･中四国地域の諸団体（地方自治体、産業界、メディア、公益社団･財団法人、NPO 法人等）との連携を引き続き発展させるとともに、京阪神・関東圏・海外の諸団体、国際機関、国際協力 NGO 等との連携も視野に入れる。

・SDGs 推進ポリシー：本学の母体ナミュール・ノートルダム修道女会の長年にわたる国際連合や開発途上国での活動、SDGs 制定への尽力、及び世界中の系列大学・学校での SDGs 実践等をふまえた「SDGs 理解」と、女子大学である本学の特徴をふまえた SDGs の達成とを推進する。

組　織

名　　称：ノートルダム清心女子大学 地域連携・SDGs 推進センター

(NDSU Center for Regional Collaboration and SDGs Promotion：NRS)

開 設 日：2019 年 4 月 1 日 （旧 地域連携センター 開設日：2014 年 4 月 1 日）

スタッフ（2023 年 4 月 1 日）：センター長　濱西 栄司

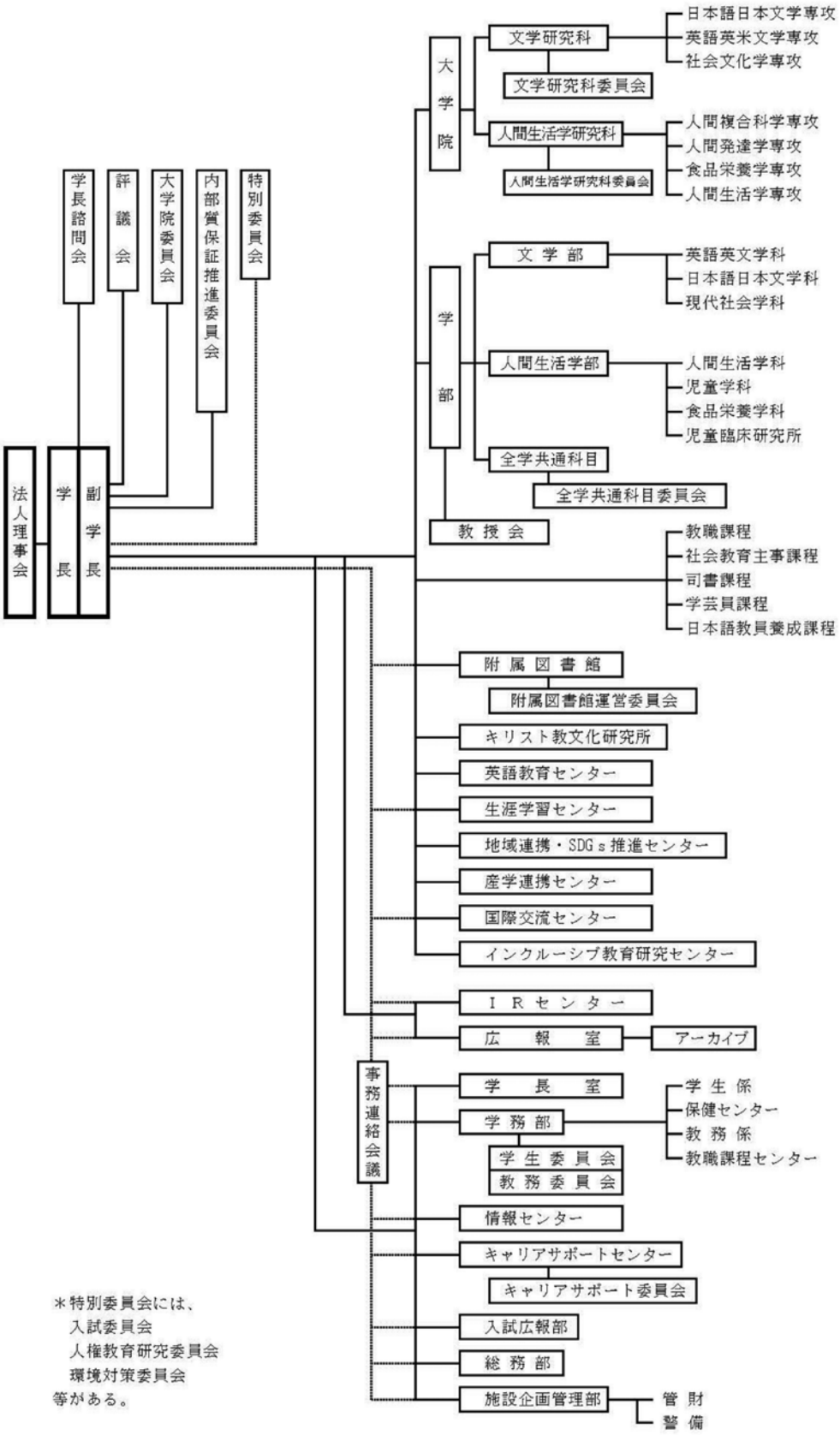
主任　濱﨑 絵梨

所員　豊田 尚吾

事務職員　藤原 久美子　渡邊 恭子　圓山 紗永

センター外観

ノートルダム清心女子大学運営組織（2023（令和５年）４月１日現在）



ノートルダム清心女子大学地域連携・SDGs 推進センター規則

（設置と目的）

第１条　ノートルダム清心女子大学（以下、「本学」という。）の建学の精神に基づき、地域社会への貢献、及び「持続可能な開発目標」（SDGs）の達成を推進することを目的として、地域連携・SDGs 推進センター（以下「センター」という。）を置く。

２　センターの英語名を NDSU Center for Regional Collaboration and SDGs Promotion とする。

（地域連携・SDGs 推進センター運営会議）

第２条　本学における地域連携及び SDGs 推進の方針を決定し、その具体的な内容を検討するため地域連携・SDGs 推進センター運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

２　運営会議については、別に定める。

（業務）

第３条　センターは、運営会議が決定する本学の地域連携・SDGs 推進の方針に従い、地方自治体、産業界、公益法人、NPO 法人、国際機関、国際協力 NGO 等、地域社会・国際社会で活動する諸団体と連携し、地域への貢献と SDGs の推進、学術研究、幅広い人材の育成を行う。

（組織）

第４条　センターの責任者として、地域連携・SDGs 推進センター長（以下、「センター長」という。）を置く。

２　センター長は、教員の中から学長が任命する。

３　センター長は、センターを代表し、これを統括する。

４　センターに主任を置く。主任は，センター長の命を受け、センターの業務を処理する。

５　センターに所員及び学外所員を置くことができる。

６　センターにワーキンググループを置くことができる。

（事務）

第５条　センターに事務職員を置く。事務職員は、センターの事務を処理する。

（経費）

第６条　センターに係る諸経費は本学の予算から支弁する。

（改正）

第７条　この規則の改廃は、運営会議及び評議会の議を経て学長が行う。

附　則

１．この要領は、2019 年４月１日から施行する。

２．この規則の制定に伴い、従前の「ノートルダム清心女子大学地域連携センター規則（2014 年４月１日施行）」は、廃止する。

２．新しい取り組みについて

地域連携・SDGs 推進センター長　濱西栄司

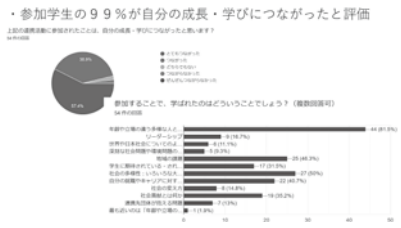
（１）「清心コラボ」

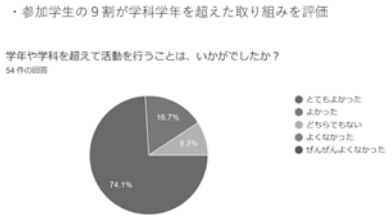
地域連携・SDGs 推進センターでは、前身組織（地域連携センター）による連携活動をふまえ、地域連携ポリシーと SDGs 推進ポリシーを策定し、それをもとに、①外部組織からの依頼に応じるだけでなくこちらからも提案・改善案を出すような＜双方向的な連携＞、および②センター直轄で、学年・学科を超えて学生が連携する＜全学的な社会連携活動＞の実施を設立来、徐々に進めてきました。後者の全学的な社会連携活動に「清心コラボ」という名称を付与して本格的に実施するようになったのは、2023 年度からです。

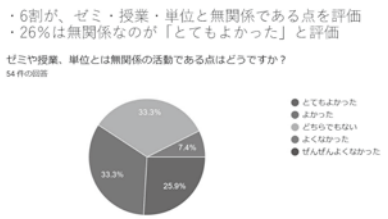
「清心コラボ」（全学的社会連携活動）の目的は、通常、学科や研究室、ゼミ、授業単位に限定される社会連携活動とは別に、学部学科・学年にこだわらず、清心生であれば参加できるような新しい枠組みをつくることにありました。そのような枠組みはたいてい学生のコントロールが難しく、学生の熱意も時間割もまったく異なるなかで、脱落者がどんどん出できてしまいますので、なかなか実現しません。本学で実現できている理由は、①サービスラーニングを重視するキリスト教の精神や本学設立母体修道女会の創設者聖ジュリー・ビリヤートの理念に共感的な学生が多く、また学年・学科の異なる学生間の連携もスムースであること、② 2000 人ほどのリベラルアーツ大学であり、参加学生数が膨大にならないこと、③地域連携・SDGs 推進センターという具体的な拠点があること、などがあげられそうです。

まだ他大学ではあまり実施されていないオリジナルな活動ですので、取材を受けることもあります。そこでお答えしていることを少しこちらでもご紹介をいたします。

・まず＜清心コラボで重視していること＞は、①完全に学生の主体性に基づくこと（単位や成績と無関係)、②学部学科バランス、学年バランス、③各学科への定期的な状況報告、④事後アンケートを実施して、意義や問題を客観的に把握し、常に改善を行うこと（下図)、です。







・＜学生を集めるための工夫＞については、清心コラボは授業やゼミ単位の活動と違って、「強制力」（成績など）が働きません。完全に学生の主体性に基づく参加です。そのため、いろいろな工夫もしています。近年の学生は自学習などで本当に忙しいですので、企画によくわからないところがあるとそれだけでリスクになるので参加を躊躇します。そのため、学生には、先方がどういう団体で、どういう連携事業で、どれくらい時間がかかり、どれくらい忙しいのか、どういう成果測定をおこなうのか、

多数になった場合どういう風にメンバーを選ぶのか、などできるかぎりすべてを説明するようにします。外部団体側にも、なるべく具体的に連携活動の内容を決めてもらうようにしています。学生は楽だから参加するわけではなく、たとえハードでも効果・意義がみえる活動であれば参加します。当然、質問や相談があれば、センター長が、ひとりひとり丁寧に対応します。

また学生は、関心をもっても、先約があればそちらを優先します。２か月前であれば予定を調整してくれますが、１か月前であればもう遅い場合がよくあります。そのため、とくにイベント型の活動の場合、「日程」が決まれば、内容が未定のところがあったとしても、第一報として全学生に共有して、スケジュールをおさえてもらうようにしています。日程がまだ決まる前であっても、外部団体と連携相談中であることを共有し、連携に関心があるかのアンケートを取ることもあります。

メンバーが決まった後は、通常、学科も学年も異なる初対面の学生ばかりなので、「ランチミーティング」をして交流してもらうようにしています（時間割が大きく異なり昼休みしか揃う時間がないためです）。

なお地域連携・SDGs 推進センター長が担当する全学共通科目「国連 SDGs 入門」を、社会貢献活動に関心のある学生が沢山受講しますので、そこで清心コラボのことを紹介するようにしています。全１年生必修の「人間論」という授業の１回分も同じく地域連携・SDGs 推進センター長が担当していますので、そこでも紹介するようにしています。また活動をまとめたチラシ（下図）を作製し、オープンキャンパスや毎年４月にあるオリエンテーションの際に、全在学生に配布しています。このようにして全在学生に参加機会を幅広く提供するように努めています。

（２）包括的連携協定の締結

2023 年度に、本学は、新たに天満屋グループ、株式会社両備システムズ、赤磐市との間で包括連携協力の協定を締結させていただきました。企業グループとの協定は初、株式会社との協定は 2 例目、そして地方公共団体との協定は 5 例目です。

㈱天満屋と本学の連携活動は、2023 年 4 月から主に本センターが担当する形で開始されました。その後、学生による天満屋倉敷店訪問や、半年にわたる商品企画活動へと発展し、それらの実績をもとに 2024 年 1 月末に天満屋グループ全体との協定締結に至りました。

両備システムズとの連携は、新学部開設室が中心となって、主に情報デザイン学部での PBL 授業での協力を念頭において開始され、同じく 1 月末に協定締結がなされました。

赤磐市との連携は、インクルーシブな小学校の校設立に向けた、本学インクルーシブ教育研究センター長の取り組みがベースになっています。そのとりくみを地域全体での多角的な連携に広げるために、2024 年 3 月に包括連携協定締結に至りました。

天満屋グループと清心女子大

地域課題解決へ協定

両備システムズも締結

天満屋グループ（岡山市北区表町）は31日、ノートルダム清心女子大（岡山市伊福町）と包括連携協定を結んだ。地域社会の発展や人材の育成が狙い。グループが学生の視点を生かし、若者が集う店づくりや商店街の活性化など幅広い地域課題の解決につなげる。大学側は、実地体験を通じて学生の課題解決能力を育む。

連携事項は、地域の文化・生活・福祉の振興▽相互の教育・人材育成▽市街地のまちづくり―など4項目。具体的には、4月開設の同大情報デザイン学部のPBL（課題解決型学習）の場として、百貨店などグループ企業の現場を提供。同大で締結式があり、グループを代表して天満屋の斎藤和好社長が、同大の津田葵学長と協定書に署名した。斎藤社長は「百貨店、物流、人材サービスなど多彩なグループ企業のノウハウや資源を活用してもらいたい。学生の力を借り、グループのシナジー（相乗効果）を発揮して地域の課題解決に向かう」、津田学長は「教育・研究の推進と地域社会の発展に寄与できれば」と話した。

協定は、天満屋と同大の学生8人が連携し、昨年9月から食品や雑貨の商品企画に取り組んできたことがきっかけとなった。ソフト開発の両備システムズ（同下石井）もこの日、同大と包括連携協定を結んだ。同社と大学との協定は2例目。人材育成、地域の文化振興など4項目で連携し、情報デザイン学部と授業やインターンシップで協力するとともに、デジタルデータを活用した地域課題解決なども視野に入れる。（櫛田曜、岡村綾乃）

協定書に署名した斎藤社長（右）と津田学長

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2024年2月1日 山陽新聞朝刊 7ページ

『山陽新聞』2024 年 2 月 1 日

新小学校の充実に連携

教育振興やまちづくり　市と清心女子大協定

赤磐市は27日、ノートルダム清心女子大（岡山市北区伊福町）と教育振興に関する連携協定を結んだ。当面は市が赤坂地域に開設する新小学校の充実に協力して取り組む。

新小学校は3小学校（石根、軽部、笹岡）を2026年4月に統合・開設する計画。同大の青山新吾准教授が、25年7月の最終答申に向けて新小学校の運営方法や教育内容を協議する準備委員長を務めており、今回の協定につながった。

市役所であった調印式で、友実武則市長と津田学長が協定書に署名。友実市長は「多様性を認め合う教育を掲げる青山准教授の考えに胸打たれた」子育て環境の整備に向け、他の協定項目は、人材育成▽まちづくり▽相互の施設利用―など五つで、具体的な内容は今後詰める。

津田学長は「魅力ある学校づくりに寄与できれば」と述べた。

市が同様の協定を結んだのは瑞太平洋大（岡山市東区）と川崎学園（倉敷市）、県立大（総社市）に続き4件目。（近藤敬也）

協定書を交わす友実市長（右）と津田学長

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2024年3月29日 山陽新聞朝刊 28ページ

『山陽新聞』2024 年 3 月 29 日

Ⅱ．地域連携活動の一覧と報告

1．地域連携活動実績一覧

（1）連携協定一覧

・2014（平成 26）年 6 月 1 日
岡山市教育委員会との間で連携協力に関する協定を締結

・2014（平成 26）年 8 月 8 日
早島町との間で包括的連携協力に関する協定を締結

・2014（平成 26）年 8 月 25 日
株式会社山陽新聞社と包括的連携協力に関する協定を締結

・2014（平成 26）年 8 月 25 日
こくさいこどもフォーラム岡山との間で包括的連携協力に関する協定を締結

・2016（平成 28）年 5 月 12 日
和気町との間で包括的連携協力に関する協定を締結

・2018（平成 30）年 5 月 23 日
岡山市農業協同組合（JA 岡山）との間で包括的連携協力に関する協定を締結

・2018（平成 30）年 11 月 2 日
岡山市との間で包括的連携協力に関する協定を締結

・2023（令和 5）年 2 月 15 日
総社市との間で包括的連携協力に関する協定を締結

・2024（令和 6）年 1 月 31 日
天満屋グループとの間で包括的連携協力に関する協定を締結

・2024（令和 6）年 1 月 31 日
株式会社両備システムズとの間で包括的連携協力に関する協定を締結

・2024（令和 6）年 3 月 27 日
赤磐市との間で包括的連携協力に関する協定を締結

（2）連携協定に基づく活動実績一覧（締結順）

1）岡山市教育委員会との実績（各学校との連携を含む）

年　月　日	内　容
2023（令和 5）年 4 月 1 日	令和 5 年度岡山市スクールカウンセラーとして人間生活学部児童学科 東俊一准教授が委嘱。委嘱期間：2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日　（年間 220 時間）
2023（令和 5）年 4 月 28 日	令和 5 年度専門家支援チーム会議へ人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣。派遣日：4 月 28 日、5 月 26 日、6 月 23 日、7 月 28 日、9 月 22 日、10 月 27 日、11 月 24 日、12 月 22 日、2024 年 1 月 26 日、2024 年 3 月 22 日（全 10 回、毎月第 4 金曜日）
2023（令和 5）年 5 月 15 日	岡山市教育研究研修センター 岡山市教職員研修講座に、講師として人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣。
2023（令和 5）年 5 月 30 日	岡山市立江西小学校校内研修に、講師として人間生活学部児童学科 杉能道明准教授を派遣。

2023（令和5）年8月2日	令和5年度「子どもが輝く学びづくりプロジェクト」授業研究会に、講師として人間生活学部児童学科 赤木雅宣教授を派遣。
2023（令和5）年8月7日	岡山市立雄神小学校 人権教育研修会に、講師として人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣。
2023（令和5）年8月31日	岡山市学校保健会中学校保健部会 岡山市中学校養護教諭向け研修会に、講師として人間生活学部児童学科 椙原彰子講師を派遣。
2023（令和5）年9月28日	令和5年度第1回「岡山市特別支援連携協議会」に、委員として人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣。
2023（令和5）年10月1日	岡山市社会教育委員として文学部現代社会学科 福田雄准教授が委嘱。委嘱期間：2023年10月1日～2025年9月30日
2023（令和5）年10月20日	岡山市立富山中学校教職員向け校内研修会に、講師として人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣。
2023（令和5）年11月13日	令和5年度「特別支援教育の視点を生かした授業づくり実践研究」研修会に、講師として人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣。
2023（令和5）年12月18日	第1回岡山市社会教育委員会議に、委員として文学部現代社会学科 福田雄准教授を派遣。
2024（令和6）年1月22日	令和5年度「子どもが輝く学びづくりプロジェクト」授業研究会に、助言指導者として人間生活学部児童学科 土居裕士准教授を派遣。
2024（令和6）年2月2日	岡山市立岡山後楽館高等学校特別講義に、講師として人間生活学部人間生活学科 濱﨑絵梨准教授を派遣。
2024（令和6）年2月14日	令和5年度「子どもが輝く学びづくりプロジェクト」授業研究会に、助言指導者として人間生活学部児童学科 赤木雅宣教授を派遣。
2024（令和6）年2月26日	令和5年度「特別支援教育の視点を生かした授業づくり実践研究」研修会に、講師として人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣。
2024（令和6）年3月15日	第2回岡山市社会教育委員会議に、委員として文学部現代社会学科 福田雄准教授を派遣。
2024（令和6）年3月	岡山市教育研究研修センター 教職員研修講座に、オンデマンドコンテンツ監修者として人間生活学部児童学科 赤木雅宣教授を派遣。オンデマンドコンテンツの公開期間：2024年3月～2025年3月
2024（令和6）年3月	岡山市教育研究研修センター 教職員研修講座に、オンデマンドコンテンツ監修者として人間生活学部児童学科 杉能道明准教授を派遣。オンデマンドコンテンツの公開期間：2024年3月～2025年3月

2）早島町との実績

年　月　日	内　容
2023（令和5）年8月25日	令和5年度早島町栄養委員会研修会に、講師として人間生活学部食品栄養学科 焔硝岩政樹准教授を派遣。
2023（令和5）年9月17日	早島町立図書館講座に、講師として文学部日本語日本文学科 東城敏毅教授を派遣。演題：「『万葉集』大宰府文学圏の世界―大伴旅人と山上憶良―」派遣日：9月17日、9月24日

3）株式会社山陽新聞社との実績

年　月　日	内　容
2023（令和5）年10月10日	吉備創生カレッジ（大学コンソーシアム・山陽新聞社の共催）講師として文学部現代社会学科 森泰三教授に講師依頼。出張講義「GISで考える身近な地域　多様なWebGISの利用事例」
2023（令和5）年11月6日	吉備創生カレッジ講師として人間生活学部人間生活学科 杉山博昭教授に講師依頼。出張講義「岡山の福祉の歩みと渋沢栄一　先駆的な福祉事業と渋沢栄一の関係」

4）岡山市との実績（その１：委嘱・依頼関係）

年　月　日	内　容
2023（令和5）年4月1日	岡山市防災会議委員として人間生活学部人間生活学科 濱﨑絵梨准教授が委嘱。委嘱期間：2023年4月1日～2024年8月31日
2023（令和5）年4月1日	岡山市国民保護協議会委員として人間生活学部人間生活学科 濱﨑絵梨准教授が委嘱。委嘱期間：2023年4月1日～2024年8月31日
2023（令和5）年4月1日	岡山市文学によるまちづくり部会委員として文学部日本語日本文学科 山根知子教授が委嘱。委嘱期間：2023年4月1日～2025年3月31日
2023（令和5）年4月1日	岡山市社会福祉審議会委員として人間生活学部人間生活学科 立石麻美子助教が委嘱。委嘱期間：2023年4月1日～2026年3月31日
2023（令和5）年4月1日	岡山市市民の童話賞選考委員会委員として文学部日本語日本文学科 星野佳之准教授が委嘱。委嘱期間：2023年4月1日～2025年3月31日
2023（令和5）年4月1日	岡山市市民の童話賞選考委員会委員として人間生活学部児童学科 村中李衣教授が委嘱。委嘱期間：2023年4月1日～2025年3月31日
2023（令和5）年5月16日	岡山市保育協議会7ブロック研究委員会に、講師として人間生活学部児童学科 三宅一恵准教授を派遣。派遣日:5月16日、6月13日、7月11日、8月8日、10月17日、11月14日、12月12日、2024年1月13日
2023（令和5）年6月6日	岡山市特別支援教育研修推進事業指定園研修会に、講師として人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣。
2023（令和5）年6月17日	岡山市公の施設の指定管理候補者選定委員会委員として人間生活学部人間生活学科 大東正虎教授が委嘱。委嘱期間：2023年6月17日～2025年6月16日
2023（令和5）年8月1日	岡山市スポーツ推進審議会委員として人間生活学部児童学科 安江美保准教授が委嘱。委嘱期間：2023年8月1日～2025年7月31日
2023（令和5）年8月10日	岡山市発達障害者支援センター教職員向け研修会に、講師として人間生活学部児童学科 土居裕士准教授を派遣。
2023（令和5）年9月28日	令和5年度岡山市教職員研修講座に、講師として人間生活学部児童学科 藤掛絢子講師を派遣。
2023（令和5）年10月12日	岡山市学童保育連絡協議会 学童保育指導員研修会に、講師として人間生活学部児童学科 湯澤美紀教授を派遣。
2023（令和5）年10月27日	岡山市妹尾認定こども園PTA人権教育研修会に、講師として人間生活学部児童学科 三宅一恵准教授を派遣。

2023（令和5）年10月30日	北地域精神保健福祉連絡会に、講師として人間生活学部人間生活学科 中井俊雄准教授を派遣。
2023（令和5）年11月9日	令和5年度「地域と家庭の子育て推進事業」第3回研修会に、講師として人間生活学部児童学科 小田久美子教授を派遣。
2023（令和5）年11月16日	岡山市立旭公民館講座に、講師としてキリスト教文化研究所 山根道公教授を派遣。演題：「シスター渡辺和子先生の言葉に学ぶ～置かれた場所で咲く老いの安らぎ～」
2023（令和5）年11月27日	岡山市立芥子山小学校校内委員会に、講師として人間生活学部児童学科 土居裕士准教授を派遣。
2023（令和5）年11月29日	令和5年度岡山市北区中央福祉区民生委員児童委員協議会研修会に、講師として人間生活学部人間生活学科 中井俊雄准教授を派遣。
2023（令和5）年11月	令和5年度「岡山市まち・ひと・しごと創生市民会議」に、人間生活学部人間生活学科 濱﨑絵梨准教授が委嘱。委嘱期間：2023年11月～未定
2023（令和5）年12月5日	岡山市立上南公民館講座に、講師として文学部日本語日本文学科 山根知子教授を派遣。演題：「坪田譲治の生涯と岡山に根差した作品」

5）岡山市との実績（その２：地域連携・SDGs推進センター直轄の活動）

年　月　日	内　容
2023（令和5）年8月5日	岡山市北区区づくり推進事業審査会に濱西栄司センター長が出席。
2023（令和5）年10月14日	清心フェリーチェ講座「防災／SDGs講座」第3回を、岡山市危機管理室職員が担当。
2023（令和5）年11月17日	岡山市政策企画課より「まち・ひと・しごと創生市民会議」への派遣依頼。濱﨑絵梨センター主任が担当。
2023（令和5）年12月4日	外部評価の一環として、連携協定担当の岡山市政策企画課よりセンターの社会連携活動に関するヒアリングを実施。
2024（令和6）年3月9日	岡山市北区区づくり推進事業審査会に濱西栄司センター長が出席。
2023（令和5）年7月3日	令和5年度岡山市協働推進員研修会において、センター長が「学生との協働の進め方」と題して講演。【詳細は活動報告に掲載】
2023（令和5）年7月10日 2024（令和6）年3月28日	岡山市消防局担当より機能別消防団について相談。センター長が対応。Nサポを通じて在学生に機能別消防団員募集を案内。

6）岡山市との実績（その３：担当教員を介した連携活動）

年　月　日	内　容
2023（令和５）年６月～2024（令和６）年３月	岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」ツボジョーワールド探検隊（日本語日本文学科 山根知子研究室）の連携活動の実施。【詳細は活動報告に掲載】
2023（令和５）年６月～2024（令和６）年３月	岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」ノートルダム清心女子大学地理学教室（森ゼミ）（現代社会学科 森泰三研究室）の連携活動の実施。【詳細は活動報告に掲載】
2023（令和５）年６月～2024（令和６）年３月	岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」おかやまモーモースイーツ部（人間生活学科 葉口英子研究室）の連携活動の実施。【詳細は活動報告に掲載】
2023（令和５）年６月～2024（令和６）年３月	岡山市「学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト」Seishin Global Seminar（英語英文学科 Thomas Fast 研究室）の連携活動の実施。【詳細は活動報告に掲載】
2023（令和５）年６月～2024（令和６）年３月	文学と児童福祉との連携事業～よむよむふむふむプロジェクト（担当教員：児童学科 村中李衣、日下紀子）の連携活動の実施。【詳細は活動報告に掲載】
2023（令和５）年９月～2024（令和６）年３月	2023 年度文学によるまちづくり協働事業:日韓文化･文学交流（担当教員:児童学科 村中李衣）の連携活動の実施。【詳細は活動報告に掲載】

7）総社市との実績（その１：委嘱・依頼関係）

年　月　日	内　容
2023（令和５）年４月１日	総社市立新本小学校校内研修に、講師として人間生活学部児童学科福原史子准教授を派遣。派遣期間：2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日
2023（令和５）年５月１日	総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業運営委員会委員として文学部日本語日本文学科 尾崎喜光教授が委嘱。委嘱期間：2023 年 5 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日
2023（令和５）年６月20日	総社市教育研修所国語班員向け国語研修会に、講師として人間生活学部児童学科 赤木雅宣教授を派遣。
2023（令和５）年７月１日	総社市保育協議会研修会に、講師として人間生活学部児童学科 湯澤美紀教授を派遣。
2023（令和５）年８月10日	総社市教育研修所幼児教育班研修会に、講師として人間生活学部児童学科 湯澤美紀教授を派遣。
2023（令和５）年８月29日	総社市保育協議会保育研究部会に、講師として人間生活学部児童学科 湯澤美紀教授を派遣。派遣日：8 月 29 日、11 月 7 日、2024 年 1 月 9 日、2024 年 2 月 13 日
2023（令和５）年11月20日	総社市全国屈指福祉会議に、有識者として人間生活学部人間生活学科 中井俊雄准教授を派遣。
2023（令和５）年12月25日	総社市特別支援教育推進センター研修会に、講師として人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣。
2024（令和６）年１月25日	総社市民生委員児童委員協議会役員研修会に、講師として人間生活学部人間生活学科 中井俊雄准教授を派遣。

7）総社市との実績（その２：地域連携・SDGs 推進センター直轄の活動）

年　月　日	内　容
2023（令和５）年４月13日	総社市政策提言型インターシップに関する打合せ。 出席者：総社市総合政策部政策調整課 主事 濱西栄司センター長、他、キャリアサポートセンター主任
2023（令和５）年５月10日	在学生にＮサポでインターンシップの案内。申し込み開始（6月11日締切）。2月27日に一報済。
2023（令和５）年８月10日	総社市インターンシップ本学向け開講式。 出席者：総社市長他 津田葵学長、豊田尚吾副学長、濱西栄司センター長、学生22名
2023（令和５）年８～９月	総社市インターンシップの実施。6学科１～３年生22名が５日間、各部署でインターンを実施。実施後のアンケート、政策提言案の提出。 【詳細は活動報告に掲載】
2024（令和６）年２月６日	総社市インターンシップ修了式および政策提言報告会。 出席者：総社市長他 津田葵学長、豊田尚吾副学長、濱西栄司センター長、学生11名
2024（令和６）年３月15日	総社市インターンシップ優秀政策提言表彰式において本学学生が表彰。 出席者：総社市長他　濱西栄司センター長、学生２名
年　月　日	**内　容**
2023（令和５）年７月６日	そうじゃ吉備路マラソンの協定大学学生ボランティアに関する打合せ。 出席者：総社市文化スポーツ部 部長他　濱西栄司センター長
2023（令和５）年10月13日	在学生にＮサポで、ボランティア募集開始を案内。学生37名が応募。
2023（令和５）年11月５日	そうじゃ吉備路マラソンの協定大学学生ボランティアの本学担当（選手係）に関する打合せ。 出席者：総社市文化スポーツ部 部長他 濱西栄司センター長
2024（令和６）年２月８日	ボランティア参加学生向けの学内説明会。山陽新聞が取材。 出席者：総社市文化スポーツ部・スポーツ振興課 部長他 濱西栄司センター長、学生37名
2024（令和６）年２月25日	「2024そうじゃ吉備路マラソン」当日。本学学生37名がボランティアとして参加。濱西栄司センター長が引率。　【詳細は活動報告に掲載】 ※2024年４月21日（日）に総社市役所において参加学生交流会実施。

7）総社市との実績（その３：センター及び担当教員を介した連携活動）

年　月　日	内　容
2023（令和５）年９月27日	総社市からの共同研究依頼（チュッピー新衣装）に関する打合せ。 出席者：総社市総合政策部政策調整課主事、同魅力発信室主事 濱西栄司センター長、人間生活学部人間生活学科 中川敦子准教授 産学連携センター　北村弥生主任
2023（令和５）年10月11日	総社市と本学において、チュッピーの衣装デザイン・制作に関する共同研究契約を締結。

2023（令和5）年10月17日	センターから在学生にNサポで、チュッピー衣装デザイン募集を案内（11月17日締切）。締切までに15作品応募。オンライン投票ページの作成。
2023（令和5）年11月22日	センターから在学生にNサポで、学内オンライン投票開始を案内（11月29日締切）。12月1日、上位3デザインについて在学生に結果報告。
2023（令和5）年12月12日	センターから在学生にNサポで、総社市による3デザイン全国投票の開始を案内（12月24日締切）。2024年1月11日、全国投票の結果（日本語日本文学科3年森本彩乃さんのデザインが採択）を在学生に報告。
2024（令和6）年1月15日 および3月8日	総社市共とのオンライン打合せ。 出席者：総社市総合政策部 魅力発信室主事他 濱西栄司センター長、人間生活学科 中川敦子准教授
2024（令和6）年1～3月	チュッピー衣装の制作へ（人間生活学科 中川敦子准教授及び有志学生） 【詳細は活動報告に掲載】
2024（令和6）年3月26日	チュッピーオーダーメイド衣装　表彰式＆お披露目式 出席者：総社市長他 学生10名、濱西栄司センター長、人間生活学科 中川敦子准教授

8）天満屋グループとの実績

年　月　日	内　容
2023（令和5）年6月29日	株式会社天満屋と本学の社会連携に関する打ち合わせ。 出席者：天満屋外商部部長、地域連携推進担当課長等 濱西栄司センター長、学生職員他 ※7月1日、天満屋との連携希望について学生アンケートを実施。
2023（令和5）年7月7日	全学共通科目「国連SDGs入門」（センター長担当）において天満屋地域連携推進担当課長のゲスト講義（天満屋の地域連携活動について）。
2023（令和5）年7月28日	天満屋と本学の社会連携に関する打ち合わせ。 出席者：天満屋地域連携推進担当課長　濱西栄司センター長 ※8月7日、具体的連携案について学生アンケートを実施。
2023（令和5）年8月18日	天満屋倉敷店での「くらしき農林水産品フードマッチング商談会」を有志学生4名と濱西栄司センター長が天満屋地域連携推進担当と視察。
2023（令和5）年8月31日	天満屋地域連携推進担当課長と商品企画連携に関する打ち合わせ。 出席者：天満屋地域連携推進担当課長　濱西栄司センター長
2023（令和5）年9月21日	天満屋との連携活動のキックオフミーティング。 出席者：天満屋地域連携推進担当課長、学生8名、濱西栄司センター長
2023（令和5）年9月～ 2024（令和6）年3月	天満屋と本学学生の連携活動の実施。月2回の企画会議他 雑貨班・食品班各4名（5学科1～3年）【詳細は活動報告に掲載】
2024（令和6）年1月31日	天満屋グループとの間で包括的連携協力に関する協定を締結。 出席者：株式会社天満屋代表取締役社長、取締役、地域連携推進担当他 津田葵学長、豊田尚吾副学長、小林謙一副学長 濱西栄司センター長他
2024（令和6）年3月31日	「OKAYAMAつながる市」（表町商店街）に食品班が出店。

9）両備システムズとの実績

年　月　日	内　容
2024（令和6）年1月31日	株式会社両備システムズとの間で包括的連携協力に関する協定を締結。

１０）赤磐市との実績

年　月　日	内　容
2023（令和5）年8月18日	赤磐市教育委員会インクルーシブ教育研修会に、講師として人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣。派遣日：8月18日、8月22日
2023（令和5）年9月17日	赤磐市教育委員会講演会に、講師として文学部日本語日本文学科 山根知子教授を派遣。
2023（令和5）年10月26日	赤磐市赤坂中学校区における小学校統合準備委員会に、委員として人間生活学部児童学科 青山新吾准教授が委嘱。委嘱期間：2023年10月26日～2026年3月31日
2023（令和5）年10月26日	第1回赤磐市赤坂中学校区における小学校統合準備委員会に、委員として人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣。
2023（令和5）年12月20日	第2回赤磐市赤坂中学校区における小学校統合準備委員会に、委員として人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣。
2024（令和6）年1月21日	赤磐市立中央図書館文学講座に、講師として文学部日本語日本文学科長原しのぶ教授を派遣。派遣日：2024年1月21日、2024年1月28日
2024（令和6）年2月3日	赤磐市教育委員会インクルーシブ教育研修会に、講師として人間生活学部児童学科 青山新吾准教授を派遣。
2024（令和6）年2月6日他	赤磐市と包括連携協定に関する打ち合わせ 出席者：赤磐市政策推進課、赤磐市教育委員会担当他 濱西栄司センター長
2024（令和6）年3月27日	赤磐市との間で包括的連携協力に関する協定を締結。 出席者：赤磐市長他 津田葵学長、豊田尚吾副学長、濱西栄司センター長

２．地域連携活動報告（一部）

（１）各連携協定に基づく活動（締結順）

【NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山との包括的連携協定に基づく活動】

2023 年度「国際塾」の報告

児童学科　福原　史子
（NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山理事）

岡山県下の高校生たちが、日本人としてのアイデンティティーと国際感覚を兼ね備え、グローバル社会に適応できる人材に育つことを目指す「こくさいこどもフォーラム岡山（INTERKIDS、会長／秋政孝一）」は、活動の一つとして「国際塾」を毎年開催している。これまでに約 600 名の修了生を輩出しており、2023 年度は、20 期生として 47 名（中学生５名を含む）を迎えて、国際問題や文化などを学び、幅広い視野や考える力を身に付けられるよう 11 回の多彩な講座を企画し実施した。カリキュラムは表１に示す通りであった。“How Can We Improve and Cultivate a More Positive Image for Okayama Prefecture?”を全体のテーマに設定し、卒塾式にはグループ毎に英語でプレゼンテーションを行った。また、本年度も 7 月 29 日（土）･30 日（日）の２日間、夏季合宿を実施し、英語プレゼンテーション講座、グループ活動や座禅研修等を行った。

さらに、12 月 17 日（日）には、特別講座として岡山コンベンションセンター１階イベントホールにおいて「SDGs と私～今、私たちにできること・すべきこと」をテーマに「ESD カフェ URA2023」を主催した。岡山県下の 19 校から 156 名の生徒がエントリーし、当日は生徒 136 名およびアドバイザー・引率教員・来賓・世話人等 46 名、総勢 182 名が参加する大盛会となった。18 の小グループに分かれ、各テーブルには各界からのアドバイザーが加わり、SDGs の 17 の目標についてディスカッションをした後，Google Slide にまとめ発表する内容であった。本学文学部長山下美紀先生にアドバイザーとしてご参加いただき、貴重なご助言をいただいた。

本年度はこれまでの活動が認められ、「SDGs ジャパンスカラシップ岩佐賞」および「岡山信金 SDGs アワード優秀賞」を受賞する朗報もあった。ここ数年は、コロナ禍で本学を会場とする講座の開催が難しかったが、新年度は開催の予定がある。包括連携協定により本学を会場に実施される講座に関しては、本学学生・教職員が無料で聴講できることから、関係者が多く関わり、有意義な学びができることを期待している。

表１　2023 年度第 20 期「国際塾」のカリキュラム

NO	期日	テーマ	開催場所
第1回	5/14（日）	**入塾式**<杉山慎策塾長>　**入塾パーティー** **卒塾生先輩からのエール**　<高橋拓真（慶応大卒・㈱BizPato社長）、長谷川舞（英語教師） 山本幸歩（慶応大SFC総合政策学部在学中「カエリタイ」運営> **2023年度課題「私たちは岡山のイメージをどうすれば改善できるのか？」** How Can We Improve And Cultivate A More Positive Image For Okayama Prefecture? 杉山慎策　国際塾塾長（中国学園大学・中国短期大学　副学長）	岡山理科大学 50周年記念館 3F会議室 2F会議室
第2回	6/11（日）	**グローバル化の時代の生き方** 高宮純一 先生（㈱萩原工業 経営企画室 室長・元JETRO岡山所長）	岡山国際交流センター 7F多目的ホール
第3回	6/18（日）	**分析思考とデータ活用で拓くスポーツの新しい楽しみ方～スポーツアナリティクスとは？～** 久永　啓　岡山理科大学経営学部経営学科准教授・元サンフレッチェ広島分析コーチ	岡山理科大学 50周年記念館 3F会議室
第4回	7/9（日）	**発展途上国でのプラスチック分別促進の取組について** 藤原健史　岡山大学学術研究院環境生命科学学域　教授	岡山国際交流センター 7F多目的ホール
第5回	7/17 （月・祝）	**「国際交流」と「国際協力」から出来ること** 井上　満 先生　元JICAボランティア（ケニア・ミャンマー）、スポーツインストラクター	岡山国際交流センター 7F多目的ホール
合宿 研修	7/29（土）	**国立吉備青少年自然の家　夏季合宿** **・「英語プレゼンテーションを始めよう！」** 藤代昇丈　中国学園大学国際教養学部教授 **・「岡山の特産品と商品開発～黄ニラ・パクチー」** ㈱アーチファーム　植田輝義　社長 **・「自分たちの町や村の"イチオシ"を探求！～映画のロケ地やネタを探し魅力発見」** 岡山県フィルムコミッション　FCコーディネーター　妹尾真由子先生 **・2023年度課題 「私たちは岡山のイメージをどうすれば改善できるのか？」ディスカッション1** 杉山慎策　国際塾塾長（中国学園大学・中国短期大学　副学長）	国立吉備青少年 自然の家
	7/30（日）	**・2023年度課題 「私たちは岡山のイメージをどうすれば改善できるのか？」ディスカッション2** **・学びの源泉！農業のもつ可能性～稲、椎茸のイノベーションとは～**　みた農園代表　三田善雄 先生 **・坐禅入門～その意義と坐り方を学ぶ～**　14:00 小鍛冶一圭ご住職	吉備青少年自然の家 大井地区・みた農園 臨済宗・井山宝福寺
第6回	8/2（水）	**駐日大使との対話～ジョージアから学ぶウクライナ戦争** ティムラズ・レシャバ　ジョージア駐日大使、ダヴィド・ゴギナシュヴィリ分析員 逢沢一郎 衆議院議員（ジョージア議員連盟会長・元外務副大臣）	岡山国際交流センター 5F第1会議室
第7回	8/6（日）	**ハレノワから始まる岡山の舞台芸術！～照明・音響・舞台装置を学ぶ** 草加叔也　岡山芸術創造劇場　劇場長	岡山芸術創造劇場 ハレノワ
第8回	8/27（日）	**外国人とともに暮らす社会へ！～多文化共生社会について考える** 留学生・在留外国人と学ぶワークショップ	岡山国際交流センター 地階レセプションホール
第9回	9/17（日）	**グローバル企業 "総合商社" 三井物産の仕事について** 岡本竜馬　先生　三井物産㈱関西支社業務部　国内戦略企画室長	岡山国際交流センター 7F多目的ホール
第10回	10/22（日）	**青年よ大志を抱け！～自分が目指す志の北極星を見つけよう！～** 立志教育支援プロジェクト 理事長　角田みどり 先生ほか	岡山国際交流センター 地階レセプションホール
第11回	11/26（日）	**2023年度課題「私たちは岡山のイメージをどうすれば改善できるのか？」**<英語によるチーム別プレゼン> **卒塾式＆卒塾パーティー** 杉山慎策　国際塾塾長（中国学園大学・中国短期大学　副学長）	岡山理科大学 50周年記念館 3F会議室・2F会議室
特別 講座	12/17（日）	**ESD Café URA 2023 「SDGsと私～今、私たちにできること・すべきこと～」** 岡山県下中高校生と社会人が17の目標についてディスカッションし、チーム別発表	岡山コンベンションセンター ままかりフォーラム

【岡山市との包括的連携協定に基づく活動：学生イノベーションチャレンジ】

[Seishin Global Seminar (Dr. Fast's Seminar)]
―Kibiji Sustainable Tourism Promotion Plan―

英語英文学科　Thomas Fast

★活動目的

吉備路地区には歴史的・文化的遺産や季節ごとに美しい自然があるのにも関わらず、それらの遺産が知られておらず、観光客が少ないという問題点を見つけた。そこで、吉備路地区の日帰り旅行を想定した観光 PR 動画を作成して岡山の観光系インスタグラムに掲載していただくことで、吉備路地区の観光客を増やすことを目標に活動を行った。

★活動内容（観光地の観察）

吉備路地区に足りないものを見つけるために、吉備路地区の観察はもちろん、吉備路地区以外の様々な観光地の観察や調査をし、SWOT 分析を行った。その観光地として選んだ場所は、琴平、直島、尾道である。各地の視察や分析から、ネット上での吉備路の情報量が少ないために、吉備路にある観光資源が知られていないということや日本人の観光客自体が少ないことが分かった。そこで、日帰り旅行を想定した PR 動画をつくり、発信することで多くの人に吉備路の観光名所を知ってもらうことにした。

★活動内容（PR 動画の作成）

質の高い動画を作成するために、動画撮影前に絵コンテを書き、動画の構成や流れを考えた。
動画撮影時には、その絵コンテや、斎藤 bobby 大和さんに動画撮影のコツなどを教えて頂きながら、スマートフォンを使用して、吉備津神社、つながるカフェ線、荒木レンタルサイクル、造山古墳、備中国分寺の撮影を行った。

作成した動画は、大学のホームページや岡山コンベンション観光協会の公式インスタグラムなどに掲載されており、視聴することが可能だ。

➡➡➡　Kibiji video：https:/drive.google.com/file/d/1_9idTo61gXnfs4QMJFWINm0JZ9-WkJqB/view?usp=sharing

★活動内容（SWOT 分析と提案書の作成）

琴平、直島、尾道での調査を踏まえて、観光提案書の作成を行った。主に交通、情報伝達、魅力の発信方法、文化や環境の持続可能な観光地であるための提案についてまとめた。交通面では、クロスバイク、ツーリング割引券などのキャンペーンの実施。情報伝達に関しては、若年層をターゲットにするため岡山県のインフルエンサーとコラボ、多言語の音声ガイド作成等。魅力発信の面では、イベントやツアーを積極的に実施する、SNS の活用などが挙げられた。文化や環境の持続可能性に関しては、地域住民との協力のもと環境と文化遺産を保証する、公共交通機関を利用したモデルコースの奨励、多言語に対応できる地元ガイドの育成などが挙げられた。

◀プロジェクトのホームページ
https://sites.google.com/m.ndsu.ac.jp/global-innovation-project/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0

★岡山観光コンベンション協会

岡山観光コンベンション協会の職員の方に依頼して公式 Instagram に私たちが作成した PR 動画を掲載していただいた。もうすでに 1934 回再生されている。

★動画制作協力者

斎藤”Bobby”大和

日本文化に関するコンテンツ、中小企業のプロモーションやドキュメンタリー制作を行っている。彼のモットーは「明るく、カラフルで、楽しい」である。

★まとめ

結論として、吉備エリアの地域活性化のため、吉備路地区の SWOT 分析を行い、提案書の作成と吉備路地区の日帰り旅行を想定した PR 動画の作成を行った。吉備路地区をより魅力あふれる観光地として推進するために、海外観光客の増加と地元若者の地域に関する関心を深めたい。

【岡山市との包括的連携協定に基づく活動：学生イノベーションチャレンジ】

[ツボジョーワールド探検隊]
―日本初の岡山市「ユネスコ創造都市ネットワーク」〈文学〉分野加盟に貢献―

日本語日本文学科　山根　知子

岡山市「ユネスコ創造都市ネットワーク」〈文学〉分野の加盟へ

2023 年 10 月末に、岡山市がユネスコ本部から「ユネスコ創造都市ネットワーク」〈文学〉分野に認定を受けたという知らせがありました。

思えば岡山が〈文学〉によって心ゆたかなまちになることをめざして、私は 2022 年 3 月に、坪田譲治文学賞第 35 回受賞者である本学の児童学科教授・村中李衣氏や、吉備路文学館館長ら産学官有志とともに、「ユネスコ創造都市ネットワーク」への加盟申請を求める提言書を岡山市役所にて大森雅夫市長に提出したのでした。それ以来、さらにメンバーを拡げて結成された「文学による心豊かなまちづくり部会」としての産学官のメンバーとともに、岡山市が〈文学〉のまちとして勢いづいていくことができるようなイベントや市民がみずから参加できるような場の形成を積み重ねていきました。こうして準備をしながら岡山市と作成したユネスコへの申請書には豊かな文学者や読書活動についてのアピールポイントを示し、その内容によって国内委員会の推薦を得て、6 月にはユネスコへ加盟を申請してきたことが思い返されます。こうして待たれていた 10 月の良き結果を受けて、坪田譲治文学の普及活動をしてきた本学学生による「ツボジョーワールド探検隊」のメンバーも、そのアピールポイントとなる要素の一翼を担ってきたことから、歓声をあげて喜びあいました。

ここで、〈文学〉分野においては日本初となる「ユネスコ創造都市ネットワーク」に、岡山市の加盟が認められたことに、本学が貢献してきた実績すなわち申請書に記載された要素について紹介したいと思います。まず、〈文学〉に関わる具体的な点においては、岡山市が制定した岡山市文学賞のうちの「坪田譲治文学賞」が、今年度第 39 回となる実績をもち、坪田譲治文学に続く「大人も子どもも共有できる世界を描いた優れた作品」に錚々たる選考委員によって賞が与えられることで文学界の質の向上に貢献しており、それとともに市民の創作活動を奨励し市民文化の向上に資することを目的とした「市民の童話賞」を設けていることは、申請内容の大きな土台となりました。

その土台に関係して、本学日本語日本文学科では「文学創作論」という創作授業が 20 年来実施されていることはアピールポイントとなりました。ちなみにこの授業の今年度の成果を書き添えると、今年度の履修生の一人が「市民の童話賞」で受賞しました。さらに、かつて授業を受けた卒業生が集英社主催のノベル大賞で受賞し、その出版が決まって作家としてデビューすることになりました。

さらに、日本語日本文学科学生有志により 2017 年度に始まった「ツボジョーワールド探検隊」（2022 年度・2023 年度は日本語日本文学科開講科目「総合探究Ⅰ」）は、岡山市文学賞の行事に直接関与して活動してきました。これまで「坪田譲治文学賞」「市民の童話賞」ともに岡山市文学賞の表彰式や岡山

市文学フェスティバルを本学の会場で行い、司会進行やプログラムの企画運営を学生が担当し開催するなど、学生が全力を注いできた実績は文学をめぐる岡山市への貢献として強調できるものとなっています。

加えて、この申請書には本学の存在が岡山という地域に果たした歴史的な貢献についても記されました。今まさに、ナミュール・ノートルダム修道女会のシスター6名が岡山での清心高等女学校での教育活動を引き継ぐために来日した1924年からちょうど100年を迎える年となりますが、このナミュール・ノートルダム修道女会のもつ世界に開かれたネットワークのもとで本学が岡山の地において行なってきた心の豊かさを育む教育が評価され、今後においても期待されています。

「ツボジョーワールド探検隊」7年目の拡がり―坪田譲治と永瀬清子の郷土愛

さて、このような岡山市の動きを意識しながら今年度の「ツボジョーワールド探検隊」メンバー7期生は、過去6年の先輩の実績とそこに込められた思いを引き継ぎ、岡山市イノベーションチャレンジ事業に参加し活動をしました。岡山という地域から生まれた〈文学〉が、作者の岡山での体験と愛着ゆえに現在の岡山を生きる人々の心の糧になるかけがえのないものであると認識する学びをもとに活動は開始されました。

しかも新しい挑戦としては、坪田譲治に関連が深い岡山の文学者との関係に拡げたいとの思いをもって、テーマを岡山の詩人・永瀬清子との関係に及ばせ、譲治と重なる郷土愛について探究・発信しました。

このテーマから、今年度の坪田譲治紹介冊子は、『川とはぐくむ郷土愛―譲治と清子の見た世界―』と題して発行し、譲治の童話でも清子の詩でも見出すことができた郷土愛として、岡山県の三大河川への両作家のまなざしに注目した冊子となりました。

「文学創造都市岡山」を冠した坪田譲治紹介冊子
『川とはぐくむ郷土愛―譲治と清子の見た世界―』

坪田譲治 郷土愛紹介 永瀬清子

ノートルダム清心女子大のグループ

研究まとめ小冊子刊行

2023年10月14日　『山陽新聞』

表紙をはじめとしてこの冊子を貫くのは、永瀬清子の詩「美しい三人の姉妹」に描かれた三姉妹とされる「吉井川」「旭川」「高梁川」を学生が描いたイメージキャラクターです。この詩を、坪田譲治は編者として『少年少女文学風土記　ふるさとを訪ねて〔Ⅱ〕岡山』（泰光堂）という本に収録しており、

岡山の大地をゆたかに潤す三大河川の魅力に感じ入っていたことが窺えます。

また永瀬清子が、譲治没後に岡山市が「坪田譲治文学賞」を制定する際に尽力し、その第１回から第７回まで運営委員を務めたことも、この冊子に紹介されています。

地域を拡げて赤磐市での行事へ

学生たちは、晩年を岡山市で過ごした永瀬清子ゆかりの場を紹介するとともに、さらに今年度の学生たちは初めて岡山市外に飛び出し、永瀬清子の出身地である赤磐市でもイベント開催を試みました。こうした学生の活動は、赤磐市教育委員会の展示「坪田譲治と永瀬清子―おかやま三大河川を愛したふたりの交流」へのパネル展示協力と、関連行事「朗読とお話　坪田譲治と永瀬清子」開催につながりました。

坪田譲治童話「ハヤ」のパペット人形劇
2023 年 9 月 17 日
於　赤磐市くまやまふれあいセンター

岡山題材 詩や童話楽しむ

ノートルダム清心女子大生

永瀬さん、坪田作品朗読会

「美しい三人の姉妹」を朗読するノートルダム清心女子大生

2023 年 9 月 21 日『山陽新聞』

会場で、学生たちは作品朗読を通して二人の郷土愛を紹介するとともに、一人ひとりが自身の地元の川への思い入れを語りました。それに触発されて参加者もみずからの故郷の川体験を次々と語る場が盛り上がったことは、郷土愛が響き合う感動の光景でした。

岡山市内では、2 作家にちなむ公共施設や商店をめぐるスタンプラリーを実現させました。

坪田譲治も永瀬清子も、〈文学〉のなかであたためてきた郷土愛が、様々な人たちの感覚で受けとめられて次世代へと拡がり、人びとの豊かな心と、地元岡山と世界がつながるグローカルな創造都市を育てることを喜んでいることでしょう。

ツボジョーワールド探検隊活動日程

月	日	活動名	場所	活動内容
4	13	ツボジョーワールド探検隊　第7期生結成	本学	・本年度の活動方針について話し合い開始
	20	ミーティング	本学	・全体のテーマについての検討 ・今後の展望についての相談
	27	ミーティング	本学	・白根直子さんを招き、永瀬清子と坪田譲治の関わりを学ぶ ・全体のテーマの再検討
5	1・13・18	ミーティング	本学	・申請書について話し合い・担当決定 ・活動テーマ「郷土愛」に決定 「坪田譲治と永瀬清子が描いた岡山愛についての探求と発信－"文学創造都市岡山"の進展を目指して－」 ・具体的な活動の決定
	25	ミーティング	本学	・今後のスケジュールの決定 ・冊子の各担当を決定
6～7	1～27	ミーティング	本学	・冊子作成作業 ・パペット作成
8	3～19	冊子最終確認、発行へ	本学	・坪田譲治紹介冊子「川とはぐくむ郷土愛～譲治と清子の見た世界～」原稿完成 ・冊子発行日を9月1日とする
	31	ミーティング	zoom	・スタンプラリーの企画
9	1～	ミーティング	本学	・スタンプラリーについての設置交渉とチラシ作成 ・パペット劇の舞台制作と練習
	17	坪田譲治と永瀬清子のイベント （協働先：赤磐市教育委員会・赤磐市くまやまふれあいセンター）	赤磐市くまやまふれあいセンター	・パペット劇「ハヤ」上演 ・紙芝居「けんかタロウとけんかジロウ」上演 ・坪田譲治と永瀬清子に関するクイズ実施
	21・28	ミーティング	本学	・スタンプラリー企画の最終確認 ・大学祭での展示内容の検討 ・中間報告会準備
10	1～29	ミーティング スタンプラリーの準備と実施	岡山市内	・スタンプラリーの実施 （岡山シティミュージアム・岡山市立幸町図書館・後楽園・おむすびや日向・パン工房スピカ・本学大学祭）
	2	岡山市立石井小学校全児童への冊子贈呈	石井小学校	・放送朝会でパペット劇「ハヤ」上演
	5	ミーティング	本学	・中間報告会の内容についての共有
	14	中間報告会	岡山市役所	・これまでの実績報告
	15	お魚ちょ～さ隊 (協働先：岡山市立岡西公民館)	能登川用水	・坪田譲治ゆかりの能登川で小学生・保護者とともに活動参加（用水路内に生息する生物の調査と水質調査）
	19	ミーティング	本学	・大学祭展示の準備 ・会場内装飾品の製作 ・景品の製作
	29	大学祭開催 （スタンプラリー協働先：岡山シティミュージアム・岡山市立幸町図書館・後楽園・おむすびや日向・パン工房スピカ）	本学	・スタンプラリーの景品交換 ・パペット劇「ハヤ」上演 ・坪田譲治と永瀬清子に関する展示
11	2	ミーティング	本学	・ハレノワ展示に向けての準備 ・冊子発送作業（岡山県内全図書館等）
	5	ウェルネスフェスタ　in　ハレノワ (協働先：OKAYAMAハレ活プロジェクト)	岡山芸術創造劇場ハレノワ	・会場での冊子配布 ・坪田譲治と永瀬清子に関する展示
12	9	岡山市「市民の童話賞」贈呈式 （協働先：岡山市文化振興課）	西川アイプラザ	・会場での冊子配布
2	17	岡山市　活動報告会	岡山市会場	・１年間の実績報告
	23	岡山市「坪田譲治文学賞」贈呈式 （協働先：岡山市文化振興課） 岡山市へ提出する実績報告書作成	ハレノワ	・会場での冊子配布 ・全員で分担し実績報告書を作成

【岡山市との包括的連携協定に基づく活動：学生イノベーションチャレンジ】

[ノートルダム清心女子大学人文地理学教室（森ゼミ）]
―用水路転落事故の実態と防止に向けたリーフレット作成と配布―

現代社会学科　森　泰三

全国で用水路転落による事故の報告がされていますが、2016 年 6 月 29 日付の朝日新聞によると岡山県では､2015 年に自転車やオートバイを運転中の転落死亡者数は､全国のワースト 1 位でした。また、岡山市においても用水路転落事故が多発し、死亡事故も多様な地域で発生しており、特に高齢者が用水路に転落して死亡する事故が報告されています。岡山県が作成した「用水路等転落事故対策ガイドライン」では、用水路転落事故防災対策の推進と転落事故発生場所や効果的な対策工法等が示されています。また、岡山市においても「用水路要注意！」リーフレットを作成したり、用水路に安全柵を設置したりする対策が行われています。そこで、3 年ゼミ生 2 名、4 年ゼミ生 1 名と教員で岡山市の用水路転落に関する実態を明かにし、地域住民の意識向上や啓発などのソフト対策を考えました。

用水路転落に関する岡山市消防局救急課の救急搬送データ（2017 年から 2021 年までの 5 年間、599 件）について地理情報システム（GIS）を活用して用水路転落地点の地図を作成しました。その地図から転落事故の多い地域を取り上げ実態を把握するために、2023 年 8 月から 9 月に岡山市東区および南区においてフィールドワークを実施し、現場の道路の状況（直線、交差点、カーブなど)、街路灯の有無、安全柵の有無などを調査しました。分析をすすめることで、用水路転落事故に関して次の 3 つの特徴が見られました。①道路に安全柵がなく、緩やかなカーブや傾斜があるところ。②時間帯では 17 時台から 19 時台。③市街地周辺の人口が稠密で用水路も多数あるところ。

これらの注意点を取り入れた用水路転落防止リーフットを 5000 部作成し、岡山市内 37 公民館に配布して、地域住民の用水路転落防止の関心や意識向上に努めるようにしました。また、リーフレットには Google マップで用水路転落の位置情報を確認できるようにしました。具体的には症状の重さ別、世代別、時間帯別の地図を二次元バーコードから、各自のスマートフォン等で任意の地域の状況を詳しく見ることができるようにしました。このことで地域住民の転落防止に向けた関心および意識向上につながることを期待しています。

用水路転落事故現場におけるフィールドワーク

用水路転落防止リーフレット

岡山市における用水路転落地点（症状の重さ別）

【岡山市との包括的連携協定に基づく活動：学生イノベーションチャレンジ】

[おかやまモーモースイーツ部]
―若者視点による岡山市観光地化とプロモーション活動の推進―

人間生活学科　葉口　英子

【概要】

岡山市学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクトへの参加はゼミ活動として今年で４年目を迎える。当初から一貫したテーマである「若者視点による岡山市観光地化とプロモーション活動の推進」のもと、「おかやまモーモースイーツ部」は、1. 岡山市の安全安心な食材を使用し、地産地消をコンセプトとした新しいスイーツの提案、2. 岡山市の観光スポット・飲食店に関する魅力ある情報発信と拡散を目的とする活動をおこなった。

【課題】

岡山市の自然・歴史・文化には、独自の価値と魅力があるにも関わらず、地元のみならず、広く人びとにそれらの十分な周知がなされていない現状がある。とりわけコト消費を支える観光・飲食業による経済効果が期待されている昨今、岡山市の観光資源の軸となる飲食店や観光スポットが十分に発掘されておらず、情報として県内外に周知されていないという課題を踏まえたものである。

【活動内容】

2023 年 6 月から 2024 年 2 月まで、8 名のメンバーにより協働先との交渉、現地視察、商品の企画開発、ロゴ･パッケージの作成、広告物のデザインと作成、２つのイベントへの出店、商品の販売など一連の活動を実施した。

① 活動のコンセプト

若い女性の視点から、岡山市の魅力を効果的に伝えられるような企画として、20 ～ 40 代の女性をターゲットとした商品を考案した。コンセプトは、岡山市の地産地消と地域福祉を応援するという目的のもと、“環境社会･人にも優しいエシカルスイーツ”とした。そのスイーツをイベントで販売するとともに、チラシや Instagram 等で情報発信をおこなうこととした。

② 協働先

協働先の１つは「松崎牧場」である。松崎牧場は、牛を良質に保つための衛生環境の良さ、地域環境に配慮した堆肥の処理、地域交流などの取り組みを評価されており、良質なジェラート、ソフトクリームを生産販売している。もう１つの協働先は、社会福祉法人旭川荘わかば寮にある就労支援Ｂ型事業所「菓子工房わかば」で、岡山県産の小麦やおからを使った焼き菓子に着目した。２つの協働先との交渉を重ね、試行錯誤を繰り返した結果、オリジナルコラボ商品「モーモーソフト」（3 種類各 500 円）が誕生した。これらの商品を２つのイベントで生産・販売することとした。

③　イベント出店

● 2023 年 10 月 28 日、29 日ノートルダム清心女子大学学園祭

小学生から大人まで幅広い年齢層の方が購入してくださった。想定以上の人気で、両日 200 個以上を売り上げた。また販売開始から３時間で完売した。

● 2023 年 11 月 5 日「ウェルネスフェスタ in ハレノワ」@岡山創造芸術劇場ハレノワ

事前に Instagram での情報発信や、市役所のデジタルサイネージ、学祭で配布したチラシなどといった広告媒体で宣伝活動を行ったことで、イベント終了１時間前にはモーモーソフト 60 個以上、おからクッキー・スティックともに販売予定数を完売した。

【学生の感想】

・ゼミ生８名でのチーム内で連携し、協力しながら、積極的に地域の方や企業の方々と交流することができた。活動は大変だったが、どれもやりがいがあり、自分たちでも楽しめる活動となった。
・自分たちで考えた計画を行動にうつすことができ、主体性が身についた。
・商品開発の協力をしてくださった方だけでなく、イベント出店をサポートしてくださった方、出店ブースに足を運んでくださった地域の方々への感謝の気持ちを強く感じることができる活動となった。
・自分たちも岡山市の魅力を知り、街や人への愛着をもつことができた。
・商品を販売した際のお客さんの様子が実感でき、やりがいがもてた。
・チーム内での自分の役割を全うする責任感が身につき、自身の成長へとつながる貴重な活動となった。

【今後の展望】

今回の企画は２つのイベント出店での商品販売で終了した。今後も後輩への引継ぎを行い、岡山市の魅力の紹介を中心に情報発信を行う予定である。

【岡山市との包括的連携協定に基づく活動：その他】

2023 年度文学によるまちづくり協働事業：日韓文化・文学交流報告

児童学科　村中　李衣

2022 年に始まった日韓文化・文化交流も、二色博樹先生を始め釜山外国語大学の皆さんのご理解ご協力のおかげで、二年目に入りました。

今年はペアを組んで、そのペアごとのオンラインでの連続した交流学習と、二日間にわたる全大会での交流という充実したプログラムが実現しました。本学の学生たちは、9 月に始まった「自立力育成ゼミⅥ」の受講生で、授業開始時点ではほとんどの学生が韓国への漠然とした憧れと興味を抱いているだけという状態でした。

歴史・政治・教育・福祉・・・どの分野についても知識を持たぬまま臨んだゼミの授業では、BAE 先生の講義に「へ～！」「そうなんだ！」とびっくりの連続。その驚きをもっての個別交流でしたので、ペア交流で疑問をぶつけあう体験は毎回さぞやエキサイティングであったろうと想像できます。その知的好奇心は、基礎の基礎の基礎しか学んでいない「ハングル学習」をよちよち歩きでも自主的に続け、本報告書の中では、その覚えたてのハングルでメッセージを書こうとするところまで彼女たちを誘ったようです。担当教員としては、「学びたい」を手にした彼女たちの姿に、胸がいっぱいになっております。すべては、釜山外国語大学の皆さんの、寛容で誠実なご対応あってこそです。ありがとうございました。

全体交流のための絵本や詩集を読み込みも、それぞれが、授業外の時間を調整しながら、最後まで自分たちで取り組みました。2 回の発表時間に彼らの全身を満たした充実感は、今後の国際理解を進める自分なりの確実な一歩になったのではないでしょうか？　未知の海へ勇気をもって漕ぎ出したそのオールをこれからも決して離さないようにと願っています。

最後に、この事業を終始温かく見守り、全体会には両日ご参加いただいた岡山市「文学によるまちづくり」スタッフさま、今年は事業内容と担当授業の関係を見直したため、活動の袂を分かちましたが、その進行具合を自分事として心配し続けてくださった山根知子先生そして誰より優しいまなざしでみんなを包んでくださっていた釜山外国語大学堀浩子先生の遠き空の上からの応援に、心からの御礼を申し上げます。

ノートルダム清心女子大学と釜山外国語大学の全体交流会チラシ

【岡山市との包括的連携協定に基づく活動：その他】

文学と児童福祉との連携事業～よむよむふむふむプロジェクト～活動報告

児童学科　村中李衣・日下紀子

岡山聖園子供の家のスタッフのみなさまと、岡山市文化振興課のご理解ご協力によって2023年6月より、学生有志と教員が、月2回のペースで「子供の家」を訪問させていただくようになりました。

「よむふむの会」という会の呼称があらわすとおり、絵本を読みあう楽しさを分かち合うこと、そして、日ごろは心の内側にしまい込んでいた気持ちをゆっくり外に出してみる機会と場所をつくることをめざし、緩やかにスタートしました。福祉・文化・教育を融合させる新しい試みですが、《先にこちら側のゴールあり》でなく、あくまでも子どもたちひとりひとりがしあわせに向かって成長し続けることを最優先に進むことを、関わる全員が大切にしています。

それは、技術的には未熟な学生の胸にも刻まれていることです。たくさんの絵本を準備していっしょに読みあうことを楽しみに訪問しても、いざ訪問してみると「絵本を読みあう」環境になく、ひたすら走り回る背中を追いかけてその日が終わったというようなことも少なくなかったようですが、「絵本を読んであげること」が目標でなく、その日その瞬間の子どもひとりひとりのゆらぎや声にならない叫びを受けとめたいと心の向きを整え直していく様子に、教員も多くのことを教えられました。

そして、教員ふたりが、それぞれ面会室を用意していただき、ひとりひとりの児童・生徒と読みあい語りあう時間を設けていただいたことで、短い時間ではあっても少しずつ「また会えたね」の喜びを共有しあえるようになってきました。最初は子どもたちのそわそわ感、何をさせられるのかな？というような落ち着きのなさも窺えましたが、ずいぶん落ち着いて20分という面接時間を自分流に味わってくれるようになってきた気がします。誰が誰のためにでなく、お互いがお互いのために喜びあえる双方向性の関係の大切さを身に沁みて感じる時間を、ひとりとひとりの紡ぎあいによって、「独り」の陰りを少しずつでも拭っていくことができるように願い、積み重ねているところです。2023年度のよむふむ活動に用いたブックリストを作成したこともご報告しておきます。

2023年度＜開催日＞計１１回

6月8　日（木）実施	10月19日（木）実施
6月29日（木）実施	11月16日（木）感染症のため中止
7月13日（木）実施	12月7　日（木）実施
7月27日（木）実施	12月21日（木）感染症のため中止
9月21日（木）実施	1　月11日（木）実施
10月5日（木）実施	1　月25日（木）実施
	2　月15日（木）実施

岡山市協働推進員研修会での講演「学生との協働の進め方」

岡山市からの依頼で、濱西栄司センター長が、2023 年 7 月 3 日（月）に令和 5 年度岡山市協働推進員研修会において「学生との協働の進め方」と題して講演を行った。

【総社市との包括的連携協定に基づく活動】

総社市インターンシップ参加報告

英語英文学科３年　佐々木　愛美

2023 年夏、筆者を含めた、全学科から集まった 22 名の学生は、総社市役所でのインターンシップに初めて参加した。8 月中旬に行われた開講式を皮切りに始まった、総社市のインターンシップには、民間企業で行われるインターンシップとは異なる点があった。それは、5 日間にわたるインターンシップの後に、政策提言の作成・発表会（翌年 2 月に実施）が課されていたことだ。

筆者は、9 月 4 日～8 日の 5 日間、教育部教育総務課でお世話になった。期間中は、市内の教育・障害者福祉サービス施設を見学させていただいたり、実際に行われている教育行政業務の一部を任せてもらえたり等、様々な経験をさせて頂いた。教職課程を履修している筆者にとっては、総社市の教育施策について理解を深め、行政サイドから教育を捉え直すことができた 5 日間は、とても貴重な時間となった。また、重度の身体障害を持った筆者が公務員として働くイメージを、実体験を伴って持つことができたことも、とても大きな収穫となった。それに加えて、「障害が重い私でも、公務員として働くことができるんだ！」という一種の自信も得ることができた。

筆者は、学校園支援ボランティアへの障害者の採用・障害を持った学生に対する、市内での職場見学やインターンシップの実施・市公式 SNS での、障害福祉サービス事業所の紹介を柱とした、障害者のインクルージョンを向上させるための政策提言を行った。政策提言を作成するにあたっては、総社市の教育・障害福祉サービスが抱えている課題を踏まえながらも、「インターンシップを通して筆者が得た自信を、より多くの障害者が持てたらいいな」という想いを大切にした。その想いが総社市に届いたのか、筆者が行った政策提言は、もう 1 人の学生が行った、若者の農業参加に関する提言とともに、「優秀政策提言」に選ばれた。その旨の連絡を頂いたときはとても驚いたが、同時に、障害を持った当事者としての声が市政へと届いたことを非常に嬉しく思った。

筆者はこのインターンシップに参加するまで、公務員の仕事内容等についてさほど理解していなかった。しかし、今回の経験を通して、職種に対する理解が深まったとともに、公務員として働くことへのやりがいを得ることができた。この経験を、自らの今後の進路決定に生かしていきたい。

【総社市との包括的連携協定に基づく活動】

「チュッピーのオーダーメイド衣装で総社市特産品を PR ！」報告

人間生活学科　中川　敦子

本学が 2023 年 2 月に総社市と結んだ包括連携協定の連携活動の一環として、総社市の魅力発信および特産品 PR を目的に総社市イメージキャラクター「チュッピー」の衣装制作の共同研究を行なった。本報告では、この取り組みについて報告する。

1.　概要

共同研究の目的は、総社市の特産品の PR につながると共に「チュッピー」の魅力 UP になるようなデザインを本学学生から募集し、人気投票によって決定したデザインの「チュッピー」用衣装を作成することである。この共同研究を通して、被服実習を履修した学生（人間生活学科 2、3 年生の有志 8 名）が、授業で習得したことを駆使して着ぐるみ用とぬいぐるみ用「チュッピー」の衣装をそれぞれ作成し、被服に関する理解を深めるとともに縫製等の技術を向上させることを目指している。

2.　活動内容

活動内容については、以下に時系列に従って示す。

1）総社市イメージキャラクター「チュッピー」の衣装デザインの募集

地域連携センターより本学学生に総社市イメージキャラクター「チュッピー」の総社市の特産品をテーマにした衣装デザインの募集を 11 月に行い、15 点のデザインが集まった。

2）本学学生による応募作品（「チュッピー」の衣装デザイン）の人気投票

集まった 15 点の衣装デザインの画像をグーグルドライブに UP し、重複投票を避けるためグーグルフォームを使用して本学におけるオンライン人気投票を 12 月に実施した。そして、上位 3 位までのデザインを選出し、それを総社市に伝えた。

第 1 位の森本さんの衣装デザイン

3）総社市による「チュッピー」の衣装デザインの人気投票及びデザインの最終決定

総社市がチュッピー Twitter において、本学で選出した 3 種のデザインに対する全国投票（12 月 11 日～ 12 月 24 日）を行った。その結果、投票総数 576 票中 242 票を獲得した日本語日本文学科 3 年の森本彩乃さんのデザインに決定した。また、全国投票の際に特産品のセロリや白桃を盛り込んでほしいという意見をもとにセロリの王冠と白桃のポシェットを追加したものを作成することになった。

4）選出されたデザインの着ぐるみ用とぬいぐるみ用「チュッピー」の衣装作成

人間生活学科の被服実習を履修していた有志 8 名（2 年生 3 名、3 年生 5 名）によって着ぐるみ用とぬいぐるみ用の衣装を 2 月より約 1 か月半をかけて制作した。まず、チュッピー本体に直接布を当てて立体裁断で型紙を作成し、デザインに表現されている特産品の質感に近い布を選択し、各部分の縫製方法等の検討、そして制作を行った。

着ぐるみ「チュッピー」の衣装制作風景

特に工夫した箇所は、とうもろこしの粒の質感を表現するためのパフキルトの手法の採用や、ぶどう、セロリ、赤米、白桃の質感の表現、衣装の着脱のし易さである。何度も試行錯誤を繰り返してデザイン画に表現されている質感に極力近づけるよう衣装制作を行った。完成した衣装は、下記の通りである。

着ぐるみ「チュッピー」の完成した衣装

5）着ぐるみ用「チュッピー」の衣装のお披露目

3月26日に総社市役所保健福祉センター大会議室において総社市長片山聡一氏、本学学長代理地域連携・SDGs推進センター長濱西栄司教授出席のもと、チュッピーオーダーメイド衣装の表彰式＆お披露目式が行われた。

チュッピーオーダーメイド衣装の表彰式＆お披露目式（写真提供：総社市）

3. 学生の感想

共同研究である衣装制作を終えての学生たちの感想の抜粋は、以下の通りである。

・被服実習では既に確立された方法で型紙を作り縫製を行うが、チュッピーの衣装制作では型紙作りから試行錯誤してきた。どうすればデザイン通りになるか、見栄えと着脱のしやすさを両立できるかなどを常に考えた。成功したと思っても問題が見つかり、やり直しになるという厳しい状況だったが、投げ出さず制作した結果、チュッピーの衣装を完成させることができ自信に繋がった。

・通常の講義では学ぶことができないことを多く学べ、また普段交流しない人とも交流でき、とても充実した衣装制作活動だった。参加して良かった。

・制作を通して、これまであまり得意ではなかった「中心となって引っ張り、的確に指示を出す」という多くの経験や、メンバー全員とコミュニケーションを取って信頼関係を築くことができ、リーダーとしての自信がついた。

・裁縫が苦手だったため大学で被服実習を履修したが、履修後も裁縫技術に自信が持てないままだった。しかし、この制作活動に参加して裁縫を楽しむことができるようになり、自分に自信を持つことができるようになった。

以上のことから、学生たちは普段の授業では学ぶことのできない体験をすることによって、様々な縫製技術を向上させることができ、自信に繋がったようである。さらに、学年を超えた新たな人間関係の構築ができるなど、学生たちにとって今回の共同研究は充実した活動となったようである。

【総社市との包括的連携協定に基づく活動】

2024 そうじゃ吉備路マラソンボランティアを終えて

児童学科１年　岡　彩衣

2023 年 2 月、本学は総社市と包括連携協定を締結した。総社で生まれ育った私は、入学前にテレビのニュース番組でその報道を観たときから、清心に入学したら協定を結んだ大学にしかできない取り組みに参加したいと考えていた。

初めてのことに期待と少しの不安を抱き、総社の中心部にある吉備路アリーナに集合した。最初の業務はランナーの受付だった。雨が降る冬の朝はとても冷え込んでいたが、ランナーの方々はこれまでの練習とトレーニングで鍛えられた丈夫な身体で、震えている方は誰１人おられなかった。「おはようございます」「頑張ってください」、私たちのこの言葉と笑顔でランナーの方を少しでも元気づけられていたら嬉しく思う。受付の後は、ゴールされた方に完走賞を発行してお渡しした。フルマラソンを完走された方の IC タグを回収する業務では、完走直後のランナーの方とお話しさせて頂けるタイミングも多く、直接「おかえりなさい」「お疲れ様でした」と伝えることができ、「ありがとう」と言っていただけてこちらが励まされた。

私たちが担当させていただいた業務はすべてランナーの方と近い距離で関わることができた。小さな子どもからご高齢の方まで幅広い層の参加者がいて地域に愛されているそうじゃ吉備路マラソンに携わることが出来てとても光栄だった。これからも、協定を結んだ清心だからこそお手伝いさせていただける取り組みに積極的に参加したいと強く思った。

【天満屋グループとの包括的連携協定に基づく活動】

天満屋連携：商品開発の活動報告（雑貨班）

人間生活学科３年　加藤　瑶子
英文学科２年　木原　小春
児童学科２年　岸本　愛華
児童学科２年　森元　綾音

2023 年 8 月、天満屋の連携により、私たちはトートバッグの商品開発に取り組み始めた。私たちは、地域連携担当の山本さんと 2 週間に 1 度、天満屋の会議室でミーティングを行った。その中で山本さんの助言を受けながら、ペルソナを設定し、AIDMA を活用して、女子大生の視点から機能性とデザイン性を兼ね備えたトートバッグを企画した。ペルソナは、本学に入学予定の新入生と設定し、新たに始まる大学生活でトートバッグを使ってもらうことを想定した。デザインの面では、「学校でもプライベートでも使いたくなるトートバッグ」を作りたいと考え、バッグの持ち手の肩掛け部分にリボンを付けることで、他の商品との差別化を図った。機能性の面では、学校に必要なパソコンなどを入れても肩が痛くならないような持ち手の幅や、小物を入れやすいポケットを考案した。

さらに、地元企業である岡山県笠岡市の SIRUHA と提携することを決定し、2024 年 2 月にはアトリエを訪れた。そこでは､代表の藤本さんや作り手の方々に私たちが作りたいトートバッグの詳細を伝え、実際の商品を見せていただきながら、サイズや生地を決定した。今後は、商品の売価や販売場所、販売促進の方法について決定していく。

私たちは、これまでの活動を通じて、商品企画においては単なる消費者ではなく、その背後にある人々の生活や価値観にも目を向けることが重要であると痛感した。　今後も、ターゲットの立場に立って考えることを大切に、商品の魅力を伝えることができる販売戦略を考案し、実行していきたい。

【天満屋グループとの包括的連携協定に基づく活動】

天満屋との連携活動報告（食品班）

日本語日本文学科３年　片山　奈々
現代社会学科２年　小野美菜子
現代社会学科１年　中村　恭子
現代社会学科１年　古川　夏美

2023 年 9 月から 2024 年の 3 月までの約半年間にわたり、食品グループと非食品グループとに別れ、天満屋との連携活動に参加した。私たちは食品グループとして活動し、「できたておむすび米米」に協力してもらい岡山の魅力を活かしたおにぎりの商品開発を行った。岡山の魅力をおにぎりにするにはどうすれば良いのか。有名なご当地グルメである、ばら寿司やひるぜん焼そば、デミカツをおにぎりにしたり、岡山の特産物でも日常的に食べる機会の少ないチヌを取り入れたり、多種多様なおにぎりを開発することができた。

また、この活動に取り組んで、商品開発の過程を学ぶことができた。その課程の中で印象に残っているのは「ペルソナ」について考えたことである。ペルソナとは、商品を利用する架空のユーザー像のことであり、実在する人物かのように名前や好みなどを細かく設定した。おにぎりについて考えるより、ペルソナについて考えることが難しいと感じた。

実際に「おむすび清心」として、3 月 31 日に無印良品が主催の表町商店街で開催されるイベントに参加し、販売を行うことになった。当日はおにぎりを作るところから携わらせてもらえることになり、さらに貴重な経験となった。

食品と岡山を結びつけて取り組んだ今回の活動は、地域に対する関心をさらに深めるとともに、地域の人のニーズにあった商品を考えることができる良い機会となった。この活動を通して、商品開発に対する知識不足、地域開発の難しさを痛感した。連携活動は終了するがこの活動で得た経験や学びを活かし、これからも地域貢献をしていきたい。

（2）その他の連携活動に関する報告

社会福祉士課程における地域連携活動

地域連携・SDGs 推進センター主任／人間生活学科　濱﨑　絵梨

社会福祉士課程では、社会福祉士に必要な幅広い視野と知識、実践力を涵養するために、さまざまな地域連携活動に取り組んでいる。本報告では、2013 年より NPO 法人岡山 NPO センターと連携して継続的に実施している取り組みについて今年度の様子を報告する。

１．活動の概要

活動の目的は、ソーシャルワーク実習（計 240 時間）で社会福祉の制度事業を中心に理解を深めた 3 年生（今年度 13 名）が、改めて地域社会の問題について俯瞰し、制度の枠組みを超えた支援の必要性やあり方についてソーシャルワークの視点から考察するとともに、社会福祉士に必要な実践力を向上することである。取り組みの内容は以下の通りである。

【フィールドワーク（11 月～ 12 月）】

地域福祉課題（特に制度の狭間における課題）に対して多面的・創造的な実践をしている団体へのインタビューと活動に参加した。今年度は、「一般社団法人子どもソーシャルワークセンターつばさ」「NPO 法人志塾フリースクール岡山」「NPO 法人オカヤマビューティーサミット」「NPO 法人岡山きずな」「NPO 法人メンターネット」にご協力いただいた。

【後楽館高校での学習交流会（2 月 2 日）】

フィールドワークを通じて学んだことや考えたことをスライドにまとめ高校生に発表した。発表後にグループに分かれて交流会を行った。高校生から、「いろいろな活動があることを知った」「福祉に対するイメージが広がった」「発表のまとめ方の参考になった」など、たくさんの感想が寄せられた。また、進路や大学生活などについても意見交換している様子がうかがえた。

【岡大×県大×清心女子大　大学生ソーシャルセクター活動合同発表会（2 月 13 日)】

さまざまな地域課題について学ぶ他大学の学生との合同発表会で一連の取り組み内容について発表し交流した（オンライン)。

現在､岡山県ボランティア･NPO 活動支援センター「ゆうあいセンター」WEB マガジン「ボランピオ」記事および活動報告冊子「Volo!!」の作成中であり、4 月中に発信・発行する予定である。地域福祉課題に対する関心や問題意識の醸成、理解促進に向けた情報発信も社会福祉士に求められる大きな役割である。

２．学生の感想

・子どもを取り巻く環境について理解が深まった。生きづらさを抱えた子どもたちは、自分が自分らしくいられる居場所を求めている。子どもの話に耳を傾け、寄り添う雰囲気が居場所には欠かせないと学んだ。

・何を中心的に伝えていきたいかを検討し、理解してもらいやすいよう工夫するなど、情報を発信する際に求められるスキルについても学ぶことができた。

・「学生である自分たちにできること」について考えることができた。学生だからできることも多くあると知り、今後の活動に活かしていきたい。

・フィールドワークを通して、自分には何ができるのかじっくりと考えることができた。高校生との交流会によって自分にはない視点や価値観に気づくことができた。社会課題は多く存在しているが、一緒に考えていける人たちがいることも分かり嬉しかった。ここで得られた学びを残りの学生生活や社会に出てから、どのように活かしていけるのか考えていきたい。

Ⅲ．SDGs 推進活動の一覧と報告

1．SDGs 推進活動実績一覧[1]

（1）「SDGs 理解」推進に関する活動実績一覧

1）「SDGs 理解」に関する寄稿・発表・説明・取材等

年　月　日	内　容
2023（令和 5）年 4 月～	岡山市男女共同参画専門委員として、濱西栄司センター長（文学部現代社会学科）が委嘱。
2023（令和 5）年 4 月～	岡山県男女共同参画推進センター運営委員として、濱西栄司センター長（文学部現代社会学科）が委嘱。
2023（令和 5）年 4 月～ 7 月	全学共通科目「ディスカッションから社会を考える」枠において濱西センター長が「国連 SDGs 入門」授業の実施。受講者約 100 名。【詳細は活動報告に掲載】
2023（令和 5）年 4 月 27 日	全学共通科目「人間論」（全 1 年生必修）において、濱西栄司センター長が SDGs ゲスト講義。SDGs 意識アンケートを実施。【詳細は活動報告に掲載】
2023（令和 5）年 5 月 15 日	第 1 回岡山市男女共同参画推進専門委員会に濱西栄司センター長が、委員長として出席。
2023（令和 5）年 5 月 24 日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム (SDG-UP) のセッションに濱西栄司センター長が SDGs カリキュラム分科会幹事として出席。
2023（令和 5）年 6 月 25 日	岡山市主催「さんかくウィーク」において、濱西栄司センター長が岡山市男女共同参画委員長として「事業者表彰」を実施。
2023（令和 5）年7月 14 日	ウェブマガジン「LIVIKA」の取材に、濱西栄司センター長が対応。本学の SDGs 活動に関する記事が掲載。【詳細は活動報告に掲載】
2023（令和 5）年 7 月 18 日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム（SDG-UP）のセッションに濱西栄司センター長が SDGs カリキュラム分科会幹事として出席。
2023（令和 5）年 9 月 2 日、9 月 16 日、10 月 14 日	清心フェリーチェ講座の「防災／ SDGs 講座」として「地域防災を支える人材育成プログラム」を実施。
2023（令和 5）年 11 月 13 日	第 2 回岡山市男女共同参画推進専門委員会に濱西栄司センター長が、同委員長として出席。
2023（令和 5）年 11 月 15 日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームのセッション [ブリュッセル自由大学とつないで]（オンライン）に濱西栄司センター長が出席。
2023（令和 5）年 11 月 16 日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム「グローバル・セミナー」修了証授与式を実施。【詳細は活動報告に掲載】
2023（令和 5）年 11 月 18 日	清心フェリーチェ講座の「SDGs 講座」として「誰一人取り残されない社会を目指して」を実施。【資料編に掲載】

[1]「地域連携」の実績としてすでに報告されているものは除いている。

2023（令和 5）年 12 月 1 日	岡山市主催「学生のためのワーク・ライフ・バランス講座」を本学で実施。コーディネイターは濱西栄司センター長。
2023（令和 5）年 12 月 11 日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームのセッションに、濱西栄司センター長が SDGs カリキュラム分科会幹事として出席。
2023（令和 5）年 12 月 15 日	岡山県高等学校総合学科研究協議会「岡山県高等学校総合学科研修会」にて濱西センター長が SDGs について講演。【詳細は活動報告に掲載】】
2023（令和 5）年 12 月 22 日	「国連 SDGs 入門」の修了証授与式を本学にて実施。
2024（令和 6）年 2 月 3 日	第 68 回国連女性の地位委員会に、大学女性協会から派遣される本学大学院生の事前報告会に濱西栄司センター長が出席。
2024（令和 6）年 2 月 5 日	第 3 回岡山市男女共同参画推進専門委員会に濱西栄司センター長が、委員長として出席。
2024（令和 6）年 3 月 7 日	岡山県男女共同参画推進センター運営委員会に濱西栄司センター長が、委員長として出席。
2024（令和 6）年 3 月 29 日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームの公開セッションに濱西栄司センター長が出席。

2）ナミュール・ノートルダム修道女会の「SDGs 理解」に関する紹介等の活動

年　月　日	内　容
2023（令和 5）年 12 月～ 3 月	ナミュール・ノートルダム修道女会国際連合オフィス・ブログ (SND at UN) の SDGs 関連記事について日本語訳を作成（英語英文学科学生が下訳作成）。【資料編に掲載】

（2）SDGs の達成に関する活動実績一覧

1）SDGs の達成に関する活動

年　月　日	内　容
2023（令和 5）年 4 月 21 日	岡山湯郷 Belle 事業本部長が、全学共通科目「国連 SDGs 入門」（センター長担当）においてゲスト講義。
2023（令和 5）年 5 月 14 日	岡山湯郷 Belle との連携活動として、ホーム戦（シティライトスタジアム）の運営ボランティア、試合観戦、特別ストレッチプログラム実施。【詳細は活動報告に掲載】
2023（令和 5）年 5 月～	一般社団法人日本自動車連盟 (JAF) 岡山支部と本学学生の連携活動の実施。【詳細は活動報告に掲載】
2023（令和 5）年 6 月～	NPO 法人消費者ネットおかやまと本学学生の連携活動の実施。【詳細は活動報告に掲載】
2023（令和 5）年 10 月 14 日	倉敷商店街振興連盟主催「宵山祭」を本学共催で実施。企画・運営に本学学生が参加。【詳細は活動報告に掲載】

2）SDGs 推進機会の在学生への提供

年　月　日	内　容
2023（令和 5）年 4 月 27 日	福武教育文化振興財団「高校生・大学生アクション助成」について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 4 月 27 日	SDGs ネットワークおかやま若者部会主催「" 知る、学びあう、出会う " ユース：SDGs の達成に向けて」について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 4 月 30 日	「岡山湯郷 Belle」との連携イベントについて、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 5 月 18 日	岡山市「さんかくウィーク 2023」開催について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 5 月 19 日	岡山県主催「令和 5 年度地域づくり人材育成セミナー」について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 5 月 23 日	内閣府人事局「女子学生霞が関体験プログラム」について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 5 月 24 日	JICA 中国主催「因島・西粟倉フィールドワーク合宿」について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 5 月 25 日	令和 5 年度　岡山 ESD プロジェクト「ユース活動支援助成金」について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 5 月 31 日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム「第 39 回グローバル・セミナー」推薦枠について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 6 月 5 日	岡山市主催「ESD 学生インターンシップ」について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 6 月 7 日	中国銀行・山陽新聞・サンマルク財団主催「岡山イノベーションコンテスト 2023」について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 6 月 7 日	岡山ガス主催「ビジネスプランコンテスト 2023」について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 6 月 14 日	本学清心フェリーチェ講座の開講情報について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 7 月 18 日	岡山県（備中県民局）主催「地域の課題解決支援事業」について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 7 月 21 日	岡山市主催「さんかくカレッジ」について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 7 月 25 日	「おためし地域おこし協力隊」（総務省）について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 8 月 12 日	NPO 法人チャリティーサンタのボランティア募集について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 8 月 13 日	岡山市北区役所「北区まちづくりアンバサダー」募集について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 8 月 30 日	本学授業「自立力育成ゼミⅤ」における、模擬国連参加について、N サポで学生に紹介。

2023（令和 5）年 9 月 14 日	NPO 法人岡山きずな活動 20 周年記念講演会「いつか笑える日が来る。――ひとりにしないという支援」について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 9 月 14 日	SDGs ジャパン主催トークイベント「それで結局、SDGs で地域はどう変わったのか？そして、これからどう変わるのか？」 について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 9 月 14 日	本学清心フェリーチェ講座における、SDGs 講座について、N サポで学生に紹介。
2023（令和 5）年 10 月 4 日	岡山市主催「さんかくウィーク」実行委員募集について、N サポで学生に紹介。
2024（令和 6）年 1 月 5 日	奉還町商店街 SGSG「みんなの奉還町書店」について、N サポで学生に紹介。
2024（令和 6）年 1 月 5 日	岡山市主催「さんかくウィーク 2024」シンボルイラスト募集について、N サポで学生に紹介。
2024（令和 6）年 1 月 5 日	令和 5 年度岡山市市民活動リーダー養成講座「大学生の地域活動体験～生活困窮課程の子どもたちに誕生日プレゼントとして届ける本を選ぼう～」について、N サポで学生に紹介。
2024（令和 6）年 3 月 1 日	国連大学 SDG 大学連携プラットフォームのシンポジウム開催について、N サポで学生に紹介。

２．SDGs 推進活動報告（一部）
（１）「SDGs 理解」推進に関する活動

『LIVIKA』への掲載：本学の SDGs の取り組みについて

オンラインマガジン『LIVIKA』（https://livika.jp/17959/）編集部からの依頼で、本学の取り組みについて紹介。

引越し/暮らしの情報 Livika ▸ INTERVIEW ▸ SDGs 大学プロジェクト × Notre Dame Seishin Univ.

ノートルダム清心女子大学

SDGS INTERVIEW

地域連携・SDGs推進センター

read more

2023.07.14 / 2023.08.01 更新

SDGs 大学プロジェクト × Notre Dame Seishin Univ.

SDGs / 取材

目次 [閉じ]

1 ノートルダム清心女子大学の紹介
2 SDGsに取り組んだきっかけ
3 SDGs施策の内容
4 SDGs施策と学生とのつながりについて
5 取り入れた後の成果・変化
6 今後の施策

SDGsに取り組んだきっかけ

本学が「SDGsに取り組んだきっかけ」を語るのはなかなか難しいものです。カトリック・リベラルアーツ教育の目的は、それそのものが「社会正義」の追求にあると言えますので、建学以来、本学で進められてきたすべてがSDGsに関連することになるからです。たとえば、女性のエンパワメントと社会進出の促進（SDG5）は、本学の設立理念そのものですし、貧困問題の解決や人権保護、環境保護などは、ローマ教皇が正式に宣言されているように、以前からカトリックのネットワークの団体・個人すべてにとっての重要な課題なのです。

とくに本学設立母体のナミュール・ノートルダム修道女会は、長年にわたってアジアやアフリカ、ラテンアメリカなどで開発途上国支援に携わってきました。2001年には国際連合に諮問する資格をもつNGOとして認められ、国連にオフィスを有し、SDGsの策定過程にも、とくに女子教育・移民女性支援の面で中心的に関わってきました。それらの活動は、本学のSDGs活動すべての見本になっています。

本学の初代・第2代学長は、本学設立母体であるナミュール・ノートルダム修道女会のアメリカ人シスターで、日本における女性の社会進出を促進するために、短期大学を経ずに、最初から4年制の女子大学を設立しました。長年にわたり本学では正規教員の半分が女性ですし、また現在では管理職・経営陣の半分も女性です。他大学にはない優れたSDG5（女性のエンパワメントとジェンダー平等）の実績として、地域においても外部評価においても、高く評価されています。

本学が明確に「SDGs」という言葉を用いるようになったのは、2019年4月の地域連携・SDGs推進センターの設置からだと言えます。他大学に先駆けて明確に「SDGs」を冠するセンターが設置され、それ以来 地域連携・SDGs推進センターを中心にして、国連の「2030アジェンダ」すなわちSDGsの推進に取り組んでさました。ナミュール・ノートルダム修道女会国連オフィスのシスターたちもその活動を高く評価してくださっています。

SDGs施策の内容

まず本学は女子大ですので、すべての授業・課外活動は、女子学生のエンパワメントのために存在しています。つまりSDG5（すべての女性のエンパワメントとジェンダー平等）の推進のためになされていると言っても過言ではありません。たとえば、女子大においてゼミはすべて女性リーダーによって進められますが、それは共学大学ではないことです。また上述のように、正規教員においても、管理職・経営陣においても完全なジェンダー平等が実現されていることによって、本格的なロールモデルを女子学生に提供することもできているのです。

つぎに授業科目としても、社会的なサステナビリティ（環境問題と人権・貧困）について、キリスト教をベースに学ぶ全1年生必修の授業「人間論」や、海外のハンセン病施設や東日本大震災被災地でのボランティアにも取り組んできた「ボランティア実践」、ESD（持続可能な開発のための教育）の授業、女性のキャリアに関する授業、また世界中の大学生と英語で SDGsやサステイナブルな社会について議論していく「模擬国連」に向けた演習形式の授業などが用意されています。国連オフィス代表のシスターを招いた講演も行われますし、2021年度からはオンラインで各地の修道女会とつないで、（聖ジュリー（修道女会創設者）の精神と、グローバル社会の問題への奉仕と教育活動を通じての取り組み）について学ぶ授業も開始されました。

取り入れた後の成果・変化

以下では、いくつかの取り組み事例を紹介したいと思います。

地域連携・SDGs推進センターが主催する学部学科を超えた取り組みにはさまざまなものがありますが、一つあげると、2022年度から開始した女子サッカーチーム「岡山湘郷Belle」との連携事業があります。たとえば、試合運営ボランティアや清心学生向けの特別プログラムを実施してさていますし、「国連SDGs入門」授業にゲスト講師としてお迎えすることもしています。岡山県内唯一の女子大として、湘郷BelleとSDG5を軸としたさまざまな連携を行っています。

女子サッカーチーム「岡山湘郷Belle」との連携事業

ノートルダム清心女子大学の紹介

ノートルダム清心女子大学は、岡山県岡山市にある私立の4年制女子大学です。岡山駅から徒歩10分ほどのエリアにあり、交通網も発展していますので岡山県だけでなく香川県など近隣県からも学生が通学しています。

1949年の創立以来、独自のリベラルアーツ教育を通して、俗下の学校教育を数多く養成してきました。実就職率も全国有数の高さです。大学ブランドランキングでも長らく中四国私立大学1位を維持してきました。本学出身の女性社長数も中国5県の大学全体で3位です（2020年9月山陽新聞）。

本学は、英語英文学科、日本語日本文学科、現代社会学科、人間生活学科、児童学科、食品栄養学科の6学科2学部から構成されており、人文科学、社会科学から自然科学まで幅広い領域をカバーしています。さらに現在、国際文化と情報デザインの学部学科を設置構想中で、これからの社会で大切となるアジア・グローカルな視野とデータサイエンスを学ぶことができる大学へと変化を続けています。

とくに本学設立母体のナミュール・ノートルダム修道女会の世界5大陸にひろがる国際的なネットワークや国連オフィスとの連携は、他大学にはない、本学の大きな特色です。2021年からは世界で活躍するシスター5名から、国連での活動や本来的なSDGs、アフリカでの発電事業やアマゾンの保護、難民支援などの取り組みを直接学ぶオンライン授業が始まりました。2022年からは全国12大学及び国連大学サステナビリティ高等研究所と連携して、「国連SDGs入門」という授業を構築し他大学に先駆けて実施しています。

国連SDGs入門
12大学＋国連大学

さらに2022年からは、「国連SDGs入門」が開始されました。この授業は、ノートルダム清心女子大学を含む12の大学（東京外大、上智、ICU、関学、北大他）と国連大学サステナビリティ高等研究所が連携して構築した日本初（世界初）の授業です。動画とディスカッションやグループワークの部分から成り、「開発と国際」「環境・持続性」「経済・投資」「外国・共生」「ジェンダー・人権」「参画・変革」という6つのテーマを、それぞれ2つの大学が担当しています――本学はお茶の水女子大とともにジェンダー・人権の授業を担当。

本学では、カリキュラム全体としても、SDG4（質の高い統合的な教育）を実現しようとしています。本学のカリキュラム編成のベースにあるのは、リベラルアーツ教育の理念である「知の全人的統合」をはかるという考え方です。理系文系問わず本学のすべての学科で、卒業論文が必須になっているのは、その執筆過程が4年間の学びの統合につながるからです。そのうえで学科の学びを「包み込む」ものとして、（通常は専門教育の前段として考えられがちな）全学共通科目が位置付けられていることは、本学の特徴だと言えます。全学年・全学科対象の演習科目やアクティブ・ラーニング型授業が開講され、実際に3・4年生が多く受講しているのは、リベラルアーツ教育

SDGs・サステナビリティ意識調査　結果レポート

2023 年 4 月 27 日（木）「人間論」授業において、濱西栄司センター長が受講生（全 1 年生）を対象に、グーグルフォームで標記アンケートを実施し、学内で共有した。

・質の高い教育をする	・ジェンダー平等に関する活動
・ジェンダー平等	・学校周辺の地域と関わりをもって地域活性化に取り組む活動
・資源のリサイクル	・ないと思う。ジェンダー平等を例にすると、意識は変わってきているが、制度が充実していなかったり制度があっても使いにくかったりしているため、システムを変えるべきだ。システムを変えるのは企業や政府のため、大学でできることはほとんどない。プラスチックも、道に捨てるようなムはそもそも授業を開いてない可能性が高いため、プラスチックを捨てないようにもな人の時間を浪費するだけである。
・ペーパーロス運動	・ジェンダー平等
・ジェンダー平等	・ジェンダー平等に関すること
・ジェンダー平等	・ペーパーレス
・貧困をなくそう	・お金に余裕がない子でも教育を受けれるようにする活動
・ごみを捨てない	・教育格差の問題について
・ジェンダー平等の実現、女性の人権や立場についての問題	・ジェンダー平等に関する活動
・ごミの細分別	・質の高い教育をみんなにに関する活動
・ジェンダー平等	・節水、ごミの分別
・ジェンダー平等、フードロス	・環境保全のための活動
・ジェンダー平等に関する活動	・ペットボトル拾い運動
・例えば、男女で色を区別するのをなくすなど	・ジェンダーを食議した活動
・ジェンダー平等、ごミ分別	・ジェンダー平等に関する活動
・ジェンダー平等に関する活動	・世界の貧困に関する活動
・ペルマーク、ペットボトルキャップの寄付	・ボランティア活動に積極的に参加すること
・ジェンダーの平等	・質の高い教育をみんなに
・ジェンダー平等	・環境エコ　ジェンダー
・ジェンダー平等	・ジェンダー平等に関する活動
・使わなくなった物の再利用	以上、100 人の学生が回答
・グリーン活動	
・ジェンダーレスである人への配慮	
・ごミ拾い	
・富裕層と貧困層の差別化の解消	
・貧富の差についての活動	
・女子大ならではのジェンダー平等の活動	
・海洋プラスチックごミを拾う運動	
・質の高い教育をみんなに	

SDGs 講演「本来の SDGs とは－エコロジーとジェンダーから考える」

岡山県高等学校総合学科研修会（※）において、濱西栄司センター長が SDGs に関する講演を実施。※県内の総合学科高校７校（岡山御津高校、備前緑陽高校、鴨方高校、勝間田高校、岡山後楽館高校、倉敷翔南高校、岡山商科大学附属高校）の生徒間の交流を図るとともに、これからの時代を生きていくために必要な資質・能力を育成することを目的として、毎年開催されているもの。

国際連合関連：UNU グローバル・セミナー　体験談

英語英文学科３年　岡本　実侑

８月７～９日にわたってオンラインで開催された、第39 回国連大学グローバル・セミナーに参加しました。今回は「持続可能な農業と食料生産：食料安全保障の確保に向けて」というテーマで、気候変動や生物多様性などの観点から持続可能な農業方法について議論しました。

１日目と２日目の最初、３日目のプレゼンテーション後の時間には、テーマに関連する分野の研究者の基調講演を聴きました。基調講演を通して、人とその他の生き物や自然との調和を意識しながら、無理なく適切な農業や食料生産を行うことの大切さを学ぶことが出来ました。

１日目の基調講演後は、ワールドカフェ形式の議論を行いました。私にとって、英語で「農業」というほぼ未知の分野に関する意見を発言することは、簡単ではありませんでした。それでも、国連大学が事前学習として配布してくださった資料から学んだことや、大学で学んだ SDGs の知識をもとに、積極的に議論に参加できたと感じています。また私が参加したワールドカフェでのグループでは、Sustainability についての再定義も行い、「人間を含むすべての生物が相関しあっているという意識をもって Sustainability の実現に取り組まなければいけない」という１つの認識をグループの皆で持つことが出来ました。

２日目は、３日目に行うプレゼンテーションを中心に行い、５人ほどのグループに分かれて議論をしました。私たちのグループは「地域の農業を活性化する」というテーマを選び、農村地域が抱える課題や状況を変えるための施策についてリサーチしつつ、ワールドカフェで得たアイデアやそれぞれの参加者の知識等を共有しながら進めました。私のグループには島留学やローカルビジネスについての知見がある参加者がいたことで、「地域」での農業の活性化について理解が深まり、特に地方に住む学生である私にとっては非常に勉強になりました。３日目のプレゼンテーション発表の時間では他のグループの発表も聴く中で、持続可能な食料生産を実現させるための農業テクノロジーなど、今まであまり知らなかった具体的な解決策も知ることができました。

このセミナーを通して、関連知識の不足を痛感したとともに、多種多様な人たちと同じ目標に向かって行動するために必要なことを学べたと思っています。それは「多様な人たちと交流し地球規模で問題を認識する、そこで得た認識をもとに自分たちの地域で出来ることをする、そこで得た知見をまた様々な人たちと共有する」というサイクルです。ここで得た知識を活かして行動を起こすとともに、このような機会への参加を今回だけで終わりにせず、同様の機会にこれからも積極的に参加していきたいです。

国際連合関連：UNU グローバル・セミナーを終えて

英語英文学科３年　那須　千花

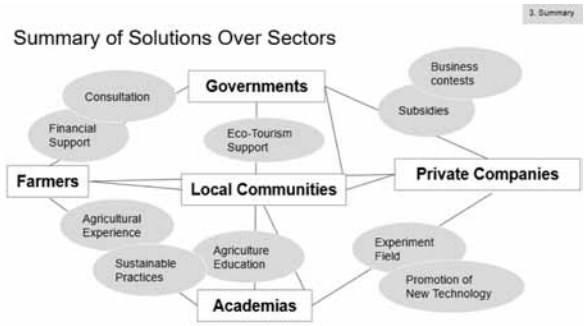
８月７日、８日、９日にわたり、オンラインで開催された第 39 回国連大学グローバル・セミナーに参加しました。今回は「持続可能な農業と食料生産：食料安全保障の確保にむけて」というテーマのもとで基調講演やグループプレゼンテーションが行われました。

【日程】
１日目：八木信行教授による基調講演
　　ワールドカフェ、グループワーク
２日目：横田篤教授による基調講演、
　　ワールドカフェ、グループワーク
３日目：グループ発表、ゴルダナ・クランジャック＝
　　ベリサヴリェヴィク教授による基調講演、修了証授与

ワールドカフェの様子▲

基調講演では、世界の食料システムの転換の重要性について学びました。事例として、肥料から LPG ガスを生成し再生可能エネルギーとして活用する資源の循環や、AI ロボットや遠隔農業によって労働力不足の解決や食糧の安定供給に役立てるスマートアグリカルチャーが印象に残りました。グループ発表では、私たちのグループは「Revitalizing Agriculture in Local Communities（地域社会における農業の活性化）」と題し、農業における地域課題を検討したうえで、農家、地方自治体、企業、研究機関などのセクターを超えた連携によるよりよい地域社会が実現されるような食料生産方法や、それに付随する活動例を提示しました。私自身はエコツーリズムの実施による地産地消の意識啓蒙や若者の農業への参加促進などを取り上げることで、英語英文学科での学びと繋げることができました。

英語での化学の専門用語が難しく最初は壁を感じましたが、グループで発表を準備する際に理解のすり合わせを行うことができたため、学びがより深まりました。後に参加の機会をいただいた模擬国連世界大会（2023 年 11 月）で扱った議題が「紛争時における食糧安全保障の権利」であったため、今回の貴重な学びを活かすことができました。



▲グループ発表で使用したスライドの一部（解決策の概要とエコツーリズムについて）

国際連合関連：「国連 SDGs 入門」の受講感想：課外活動も交えて

日本語日本文学科 3 年　秋庭　日菜子

私は 2023 年 1 期に「国連 SDGs 入門」を受講しました。理由は「SDGs」という言葉を昨今よく耳にするものの、実態をよく知らなかったためです。

受講してみて驚いたこととしては、2 つ挙げられます。1 つ目は、日本各地の大学の先生方が自身の研究分野に即した SDGs に関連する話題を各授業でしてくださったことです。それまでの大学の講義は自身の在籍するノートルダム清心女子大学の先生方、あるいは近隣の大学の先生方が受け持たれていました。そのため、北海道大学の先生が主軸となる回があるような本講義は非常に新鮮なものとして感じました。

2 つ目は、SDGs をテーマにしたディスカッションの実施です。自身の所属する日本語日本文学科の講義ではディスカッションよりも発表に対する質疑応答を行うことが多かったため、初めは少し戸惑いました。しかし、学科や学年を越えて意見を交わすことで自分では思いつかなかったアイデアが生まれてくることがとても面白く、すぐに楽しくディスカッションに取り組めるようになりました。

また、講義の一環としてシティライトスタジアムで行われた岡山湯郷 Belle の試合の観戦に行ったことも印象に残っています。私は普段スポーツ観戦をしないこともあり、生の試合を見ることに対するハードルも少しあったのですが、今回の取り組みで一歩を踏み出せました。恐らく私と同じように競技場などに赴いてスポーツ観戦することへのハードルを感じる人も多いと思うので、今回のような取り組みは今後も積極的に行うべきだと思います。

最後に、講義後 12 月に行われた修了証授与式について述べます。正直なところ、普段の講義は受講し、単位を修得すればそこで一度学びが止まることも多いです。しかし、「SDGs」については講義終了後も長期間にわたって考え続けていかなければいけません。私にとって修了証授与式はそのことを強く意識させてくれました。

前述の通り、SDGs はまだ取り組みを続けなければならないことです。そのため、これからも常に頭の片隅において自分なりに何ができるか考えて最善の行動を取るよう心がけていきます。

SDGUP
THE GLOBAL GOALS
Certificate of Completion
NAME
"Introduction to the UN SDGs: Learning Sustainability for the Decade of Action"

（2）SDGs の達成に関する活動

女子サッカーチーム岡山湯郷 Belle との連携

地域連携・SDGs 推進センター長　濱西　栄司

女子サッカーチーム「岡山湯郷 Belle」（美作市）と本学の連携は、2022 年 7 月にベルの事業本部長が本学学長を表敬訪問されたことに始まる。ベルはかつて女子ワールドカップを制した日本代表の中心選手を輩出するなど 1 部リーグの強豪であったが、監督や選手の脱退が相次ぎ、苦境を迎えた。古豪復活を目指して、2022 年度に経営陣を刷新し、地域との連携も再び強化しようとされたなかで、県内唯一時の女子大であり、かつ LGBT 学生の受入（女子サッカーに当事者多い）を表明した本学との連携を、強く希望されるようになったという経緯である。

そこで地域連携・SDGs 推進センターがベルとの連携を担当し、さまざまな協議や企画を行うとともに、湯郷での試合観戦や感謝祭への出席も行った。ネックは物理的距離であり、公共交通機関との 3 者連携も検討したがなかなか解決が難しかった。そのなかで、ベルが 2023 年 5 月 17 日に久しぶりに大学近くのシティライトスタジアムでホーム戦を実施されることが決まり、全学生に観戦を案内するとともに、全学共通科目（国連 SDGs 入門）での本部長のオンラインゲスト講義の実施、本学学生限定の特別なストレッチプログラムの企画実施などを行った。

JAF 岡山支部との連携活動（第１段階）
～ヘルメット着用促進を髪型からアプローチする～

英語英文学科４年　福原古都音
人間生活学科２年　三宅　心愛
人間生活学科２年　吉田　実央

2023 年５月から９月までの間、JAF（日本自動車連盟）岡山支部と「ヘルメットの着用率を上げるためにはどうすればよいか」というテーマについて話し合いを重ね、考えたものを成果発表という形でマスコミ向けに発表した。

2023 年４月から自転車利用者のヘルメット着用が義務化された。しかし、周りを見てみてもヘルメットを被っている人は少ない。警察庁の調査によると、2023 年７月時点での着用率は全国平均が 13.5％であるのに対して岡山は 7.4％であり、低い結果となっている。

話し合いの中でまず議題に挙げられたのが、「ポニーテールではおでこを隠すのが難しいのですが、どうすればヘルメットをかぶれますか？」という一人の女子中学生の言葉である。この言葉から、活動メンバーからも「髪型によってはヘルメットを上手く被れず、結局ヘルメットを被らずに自転車通学する学生も多かった」「私自身も髪型が崩れるのが嫌だった」という意見が出た。このことから、学生、特に女子学生がヘルメットを被らない理由は髪型にあるのではないかと考えた。その上で対象を学生に絞り、オシャレな髪型と交通安全を両立させる方法を考えることにした。自転車利用が特に多いであろう中高生たちに髪型と交通安全の２つをどのようにアプローチしていくことでヘルメットを被ってもらえるのかを考え、様々な案を出し合った。その結果、ヘルメットを被っていても可愛く、なおかつ脱いでも崩れにくい髪型をカタログにし、それを配布してみてはどうだろうかという意見が上がり、そこからカタログ作りに取り組み始めた。

第１段階では、カタログに掲載する髪型を考えた。学生をターゲットにするため、朝の忙しい時間でも簡単にできて、さらにオシャレな髪型にしようというアイデアのもと、実際に美容師さんにヘアアレンジを教えていただいた。ショートヘア、ミディアムヘア、ロングヘアの髪の長さ別のアレンジに加え、それぞれ５分、10 分でできるアレンジも追加、さらには美容師さんならではの髪についてのワンポイントアドバイスもいただき、自分たちにとっても役に立つ知識を得ることができた。

企業との話し合いの場は最初こそ緊張したものの、私たち学生の意見にも真摯に耳を傾けてくださり、毎度新鮮な気持ちで打ち合わせに臨むことができた。一人では膨らませることのできなかった考えにたくさんの人の様々なアイデアが組み合わさることで、より現実的に、より面白くなっていくのを感じた。

JAF 岡山支部の他に、岡山 NPO センターなど、多くの人の支えがありこの活動を続けることができている。第２段階の活動も引き続き、感謝を忘れず、私たちなりに精一杯頑張っていきたいと思う。

写真１　実際に美容師さんに
ヘアアレンジをしてもらっている様子

写真２　美容師さんの話を聞いている様子

写真３　2023 年９月の発表会の様子

消費者ネットおかやまとの連携活動報告書

現代社会学科３年　渡邊　　楓
現代社会学科３年　小林　奈未
英語英文学科３年　安藤　　楓
英語英文学科３年　豊田美紗樹

NPO 法人の「消費者ネットおかやま」さんとノートルダム清心女子大学の３年生４人が連携し、5 月から１月の９ヶ月間活動しました。消費者ネットおかやまさんは適格消費者団体であり、国の資格を得て消費者の代わりに裁判を起こすことのできる権限を持っており、私たちは若者の意見を発言して協力するため、連携いたしました。

私たちは、インターネット上や折り込みチラシ等に見られる悪質な広告を発見し「消費者ネットおかやま」の皆さんへ報告するパトロールと、実際に学生が遭ったエステ等での詐欺まがいな手口による被害をお伝えすることを中心に活動してきました。定期会議では持ち寄った違反広告や体験談について議論し合い、この現状を若者を中心とした消費者に伝えるための手段について話し合いました。課題としては、若者を中心とした消費者の、消費者トラブルや消費者ネットおかやまに関しての認知度の低さや、消費者ネットへ直接相談することへの抵抗、違反か否かの境界線が曖昧であること等です。

私たちと消費者ネットおかやまの皆さんで見つけたこれらの問題点を踏まえた上で、私たちはまず、1 人でも多くの人に消費者トラブルの現状を知ってもらい、消費者ネットのことをより広く知ってもらうことを目的として、消費者ネットおかやまの公式キャラクターに「ブルちゃん」と愛称を付け広告モデルに起用し、違反広告の具体例を示すこと、体験談を募集すること、注意勧告をすることを目的として、Instagram でアカウントを作成し、実際に起こった消費者トラブルなどを元にした啓発活動を行うことにしました。具体的な取り組みとしては、消費者ネットおかやまが主催する悪質商法に関する相談会の日程を Instagram 上に掲載したり、エステや通販広告でのトラブル被害を防ぐための投稿を行ったりしました。

結果として、消費者ネットおかやまの皆さんに、若者がどういった詐欺や悪質広告に引っかかりやすいかや、どこでどのように啓発活動をすると若者の目に留まりやすいかなどをお伝えすることができました。また、私達も消費者トラブルに関する対処の仕方や、広告の見方など、沢山の知識を得ることができたため、お互いに有意義な時間を持てたと感じました。この経験から、自分たちの周りの人にも声をかけられるようになり、消費者トラブルを未然に防げるようになりたいと思います。

「倉敷駅前商店街　宵山祭」活動報告

現代社会学科３年　小林　奈未

1.　概要

倉敷商店街振興連盟が主催する「倉敷駅前商店街　宵山祭」に学生の有志が協力した。このイベントは商店街の衰退を引き留め、活性化を図りたいとの目的で行われた。同様の目的で 2023 年 7-8 月に土曜夜市を開催した際にコロナ禍以前の 2019 年までは行なっていなかった音楽ステージを催した結果、非日常的なイベントの賑わいに加え、各アーティストのファンが県外からも押し寄せ想定以上の賑わいに繋がった。商店街の方からも好評だった為、次のイベントである宵山祭も成功させ、良い流れを作りたいという想いもあった。協働して企画に携わる元屋廣告社に本学 OG がおり、本学に協力依頼があった。秋祭りとしては初めての企画であるため、露店の考案や集客、当日の運営スタッフなどイベント全般に携わってほしいとのことだった。

2.　活動実績

①株式会社元屋廣告社との協働：2023 年 9 月 27 日に第 1 回目に打ち合わせを行なった。結果として 15 名がイベント企画・広報と当日の運営スタッフに分かれて活動することとなった。

②イベント企画：露店、ステージの進行、会場配置を考案するのが主な内容だった。出店する露店はわたがし、ポップコーン、カラフルえびせん、フライドポテト、フランクフルト、チョコバナナ、ダーツゲームとなった。当日参加の学生スタッフのシフト考案や食品・機材の調達なども行った。

③広報活動：倉敷商店街振興連盟が Instagram アカウントを所有していたため、主な広報ツールとして用いた。当日ステージのタイムテーブルや出演アーティスト、出店情報などを投稿し、関心の醸成に努めた。

▶ Instagram に実施に投稿した画像

④イベント当日の運営：イベントは 2023 年 10 月 14 日 13:00 ～ 19:30 に開催された。当日の学生の動きとしては露店にて製造・販売、ステージの司会進行、他出店のヘルプなどであった。

Ⅳ．資料編

1．地域連携・SDGs 推進活動に関する新聞記事・雑誌記事

※本報告書にすでに掲載済のものは除く

SDGｓ活動 企業、団体と企画・立案

清心女子大に〝学生職員〟

ノートルダム清心女子大（岡山市北区伊福町）の地域連携・SDGｓ推進センターは今春から〝学生職員〟という取り組みを始めた。学生にSDGｓ（持続可能な開発目標）推進活動や企業、団体の依頼について企画・立案に携わってもらう。同様の仕組みは、首都圏で上智大など数校が導入しているだけで珍しい試みという。（斎藤章一朗）

4年鳴滝さん 目線や思い生かす

活動するのは文学部英語英文学科4年鳴滝悠花さん(21)。国連の理念に詳しく、大学のSDGｓに関する報告書に学生代表として執筆経験があるなど積極的な姿勢が認められた。

大学には以前から学生の職業意識を育む目的で、補助的に業務を行うアルバイト「学生ワークスタディ」という制度がある。〝学生職員〟は地域連携などに関する仕事に、より主体的に関わる。

背景には企業や団体から学生との協働依頼が増加していることが挙げられる。従来は教授らが学生の意見を聞いて立案したが、目新しさや学生の自主性という点が課題だった。鳴滝さんは同センターと連携しながら毎週月曜午後に作業。センター長の濱西栄司教授と打ち合わせして学生の目線や思いを生かした企画内容を考える。

早速、実績も上げている。4月に学生と連携した交通安全啓発活動をしたいとの要望があった際は、鳴滝さんが企画を担当。岡山市のコミュニティーサイクル「ももちゃり」とヘルメット着用を組み合わせた広報や、VR（仮想現実）を使って速度の怖さを知る学習など五つの行事を提案し、実施に向けた協議を重ねている。

他にも悪質商法の被害防止啓発や、女子サッカーと学生のコラボなどにも携わった。イベントには学生の協力者が出るなど波及効果もあるという。

「教員の思いもよらない発想が魅力」と濱西教授。「依頼に応じるだけでなく、学生のニーズをくみ取り、大学主体で地域や団体を巻き込む活動にもつなげたい」と話す。鳴滝さんは「女子大にいるからこそ考え、発信できることがある。環境問題にも関心があり、学生が参加しやすい企画を考えたい」と意気込んでいた。

濱西教授（左）と打ち合わせする〝学生職員〟の鳴滝さん

『山陽新聞』2023 年 5 月 18 日

天満屋と清心女子大 連携スタート

地域活性化 女子学生の知恵生かせ

催し企画や商品開発

アイデアまとめ実現探る

岡山

地域の盛り上げに女子大生の知恵を活用しようと、天満屋とノートルダム清心女子大の連携がスタートした。学生は、岡山店で開催するイベントの企画や新商品開発、地元農産品を利用したメニュー作り、商店街活性化をテーマにアイデアを出す。今後は担当者と協議し、実現に結びつけていく考えだ。（斎藤章一朗）

4月に天満屋側から連携に関する投げかけがあったのが発端。地域連携推進の担当者が大学で授業し、百貨店と連携するなら、どんなことがやってみたいかアンケートした結果、四つのテーマが挙がった。

18日は倉敷店であった「くらしき農林水産品フードマッチング商談会」を、大学で担当する濱西栄司教授と1、2年生4人が見学。カット野菜、チーズ、食べられる花といった地元農産物のこだわった点や強みについて生産者に聞いていた。

学生は刺激を受けたようで、デニムや畳縁を使ったアクセサリーのコーナーでは「交流サイト（SNS）で女子は足や手の写真を撮ることが多い。浴衣を着た際、足首に彼氏とおそろいで着けられるアクセサリーがあると映えるし、喜ばれるのでは」と話し、製作者と盛り上がっていた。

人間生活学部2年大田原朱音さん(20)は「商品開発やマーケティングに興味がある。企業などの岡山愛を感じて勉強になった」と話していた。濱西教授によると、9月中旬までの夏休みにアイデアをまとめ、何ができるか具体的な案を詰めていく方針。

商談会の会場を見学し、新しい商品などについて思いを巡らせるノートルダム清心女子大の学生ら

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2023年8月23日 山陽新聞朝刊 25ページ

『山陽新聞』2023 年 8 月 23 日

かぶっても かわいい 髪形〝開発〟

ヘルメットをかぶってもかわいくいたい！　ノートルダム清心女子大（岡山市）の学生4人と日本自動車連盟（ＪＡＦ）岡山支部（同）が、そんな願いをかなえる髪形を考案している。自転車に乗る際のヘルメット着用が4月に努力義務化されたのを受け、秋の全国交通安全運動（21～30日）に合わせてアイデアを公表する。（良田桃子）

自転車ヘルメット努力義務化

髪型を出し、安全に清心女子大の学生（右側）とJAF岡山支部の職員たち

清心女子大生、ＪＡＦ協力　今月下旬公表

「やっぱり前髪が命だよね。一番気になる」「高い位置で結ぶとどうしても崩れちゃう」「ショートヘアでも髪が蒸れるのが嫌だ」8月下旬のJAF岡山支部。学生と支部の若手職員が、自分たちの経験を踏まえ、ヘルメット着用の悩みを出し合っていった。ヘルメットを密閉にかぶりながら、結んでも崩れない位置を確認したり、姿勢を変えて見た目も良いアレンジを試したりした。

ヘルメット着用時の髪形考案は中学生の声がきっかけ。同支部が4月から、地元の中学校でヘルメット着用について講習した際、ある女子生徒から「髪を結んでいるのでうまくいかないと」などの悩みを聞いたという。

髪形の一例。低めの位置で結び、アレンジを加えている

同支部の建部哲さん（48）は「命と髪のどっちが大事なのか」ルールを押しつけ押しつけるだけでは着用は進まない。どうしたら一人一人を考えるのかぶってもらえるのか考えていきたい」と話している。

今後、話し合いでまとめたアイデアを基に美容師のアドバイスを受け、ショート（ミディアム）「ロング（肩の長さ）」「脱いだ後に汗が乾く髪型」の計6種類をお勧めとして決定。関係者にお披露目し、同支部が講演会で中高生に周知していく。

さんテレビ「動画」

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2023年9月10日 山陽新聞朝刊 24ページ

『山陽新聞』2023年9月10日

ヘルメットでも かわいい髪形を

ヘルメットをかぶると髪が乱れる悩みを解消するため、ノートルダム清心女子大（岡山市）の学生と日本自動車連盟（JAF）岡山支部（同）が考案している髪形が完成した。ショート、ミディアム、ロングの長さで、整える時間別の計6パターンで「かわいい」と「実用」の両立がテーマ。携帯できる学生と実際のアレンジ法を聞いた。（良田桃子）

清心女子大生とJAF協力

ヘルメットに合う髪形を教えてくれた（左から）吉田さん、三宅さん、三川さん

教えてくれたのは、メンバーの同大3年・三川真帆さん（20）、2年・三宅心愛さん（20）、吉田実咲さん（20）。JAF側から依頼を受け、6パターンのうちの一つ、ミディアムヘアのBタイプのアレンジをスタートし、長さとアレンジにかかる時間別で考えていった。美容師からのアドバイスも受けながら、「簡単に、男女問わず誰でもできる髪型にしてほしい」との願いを込めた。

どの髪形も「こうするんだ」と参考にしたい。「明、時間のない学生はゴムでまとめ」と三宅さん。毛先が多かったり、髪が太かったりする人には「ヘアオイルを入れ込み、固定する。前髪は目にじませてから結ぶのがお勧め」と吉田さん。

アレンジ紹介

髪形の考案は「髪を結んでいてヘルメットがうまくかぶれない」という地元中学生の声がきっかけで始まった。今後はJAF岡山支部が学校や企業などに紹介するほか、アレンジのポイントを載せたカタログの作成を進めている。

学生たちは「実践法やお勧めなど、中高生はおしゃれも大事。アレンジ法を参考にヘアスタイルを楽しみながらヘルメットをかぶってほしい」と話している。

さんテレビ「動画」

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2023年11月5日 山陽新聞朝刊 22ページ

『山陽新聞』2023年11月5日

岡山駅周辺

女性への客引き被害増

JR岡山駅周辺でホストクラブへの飲食に女性を執拗に誘う客引きの被害が増えていることが、女子大学生の声でわかった。今年に入り、アンケートに答えた約4割が被害を訴えた。こうした行為を処罰対象にした岡山県迷惑行為防止条例を2019年に改正、取り締まり強化と新型コロナウイルス流行で減った被害が、再び目立ち始めた形だ。客引きと分からないような店名を名乗らなかったり、SNS（会員制交流サイト）でつながろうとしたりする新たな手口も明らかになった。県警は実態把握を進め対策に乗り出す構えだ。

「午後8時以降に岡山駅のバスターミナルにいると、ほぼ毎日声をかけられる」「歩きながらずっとつけられてしまった」。ノートルダム清心女子大（岡山市北区伊福町）の学生ほっこり証言する。

4割が「経験」

県西条司教授が今秋の授業で1年生52人に匿名で聞いたところ、約4割の21人が今年に入って「被害に遭った」「しつこくつきまとわれているのを見た」「友人から被害を聞いた」などと訴えた。

夜間の岡山駅東口広場が中心で、ナンパを装って近づいて来た声をかけるという。最近は「一緒なら居酒屋より安く飲めるよ」とホストクラブとは明かさない場合や、ホストが何人か声をかけたが無理だと分かると、今度も連絡を取ってしまった」。ノートルダム清心女子大（岡山市北区伊福町）の学生ほっこ証言する。

メンバーの同大2年三宅心愛さん（20）は「高校時代、同学の友達はみんな自転車に乗ると思ってたので、髪形をすごく気にしていた。崩れても簡単に直せるヘアスタイルを提案できたら」と話している。

今後、話し合いでまとめたアイデアを基に美容師のアドバイスを受け、ショート（ミディアム）「ロング（肩の長さ）」「脱いだ後に汗が乾く髪型」の計6種類をお勧めとして決定。関係者にお披露目し、同支部が講演会で中高生に周知していく。

同支部の建部哲さん（48）は「命と髪のどっちが大事なのか」ルールを押しつけ押しつけるだけでは着用は進まない。どうしたら一人一人を考えるのかぶってもらえるのか考えていきたい」と話している。

さんテレビ「動画」

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2023年9月10日 山陽新聞朝刊 24ページ

『山陽新聞』2023年9月10日

声に応えて

県警によると、学生の駅周辺住民からの苦情を受けて福岡署などが対策案を作成し、条例を改正した年1月に施行。取り締まりも強化し、この年の年末までに2カ月で女性を執拗に誘う勧誘した3件を含む計5件を摘発するなど効果を上げた。

その後は新型コロナの影響で人出が減ったこともあり、摘発は明らかに対する苦情件数も年間数件程度にとどまる。

女子大生の声を受けて、県警は11月21日、同署に「客引きに対する苦情が増えている。ルールを守らない店があるのは残念だ。厳しい対応を」と指示した。

「執拗」「不快」学生訴え

コロナ後再燃、県警対策へ

県警生活安全捜査課は「『110番しますよ』と言うだけで効果がある。難しければ条例に載せ込むなど、後日でもいいので相談してほしい」と話した。

厳西教授は「初の試みとして重要な問題。『女性に対する暴力』ともいえる。温度一つ、声をかけた学生に応えてほしい」と期待した。

金田明氏は「女性客に多額の飲食を負わせ、経済的、精神的に追い詰める悪質なホストクラブの問題も浮上している。年末年始に向けて、夜間の人出が多くなる時期でもあり、県警は月2回、週末に特別警戒のパトロールを行うなどして情報収集や老照署に努め、被害防止に乗り出すという。

ホストクラブのしつこい勧誘などを装い女性の無銭飲食を強要する事例が相次ぐ。山陽新聞社撮影・11月21日午後9時33分

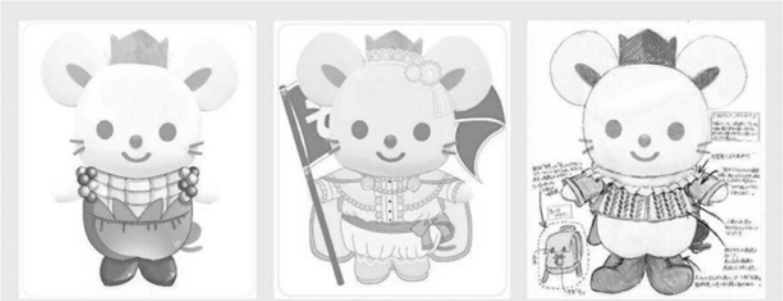
（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2023年12月3日 山陽新聞朝刊 25ページ

『山陽新聞』2023年12月3日

チュッピーの魅力、発信力アップへ

新衣装 どれがいい？



チュッピーの新しい衣装デザイン案。左から1案、2案、3案

総社

総社市は、市のPRキャラクター・チュッピーの新たな衣装を決めるインターネット投票を受け付けている。ノートルダム清心女子大（岡山市）の学生が市の特産品に着想を得てデザインした3種類の案から、1点を選んでもらう。24日まで。（寺尾彰啓）

市特産品モチーフ 清心女子大生考案 24日までネット投票

総社市と同大の連携協定に基づく取り組みで、衣装を通じた市の魅力発信が狙い。学内で学生からデザインを募り、3種類を選考した。投票で最も支持を集めた1点をベースに実際に着ぐるみ用の衣装を製作し、来年3月にお披露目する予定。

1案は市内で栽培されるスイートコーンやブドウ、古代米・赤米が主なモチーフで、2案はスイートコーンの黄色を基調にした華やかな雰囲気が目を引く。3案は春の恒例イベント「吉備路れんげまつり」や障害者施設が手がけるデニムマスクにちなみ、上着の縁をピンク色、袖をデニムで仕立てる。

投票はチュッピーのX（旧ツイッター）アカウントや市のLINE（ライン）などにある専用フォームで。市内外を問わず誰でも参加できる。市魅力発信室は「どの案も力作。みんなで選んですてきな衣装を作り上げたい」としている。

『山陽新聞』2023年12月16日

若者が目にする機会が多いネットの"問題広告"について考え、不審点を指摘してもらおうと、NPO法人・消費者ネットおかやま（岡山市北区奉還町）から要請を受けたノートルダム清心女子大3年生4人が23日、同市内で発表した。学生はSNS（交流サイト）を中心にネットパトロールし、怪しい広告を発見。危機感を募らせ「情報をうのみにせず、疑う習慣を身に付けたい」と話していた。

同ネットによると、若者はコンプレックス商品と呼ばれる美容、脱毛といった広告などを端緒に、高額契約を結ばされたり、解約できなかったりしてトラブルに巻き込まれるケースがある。被害に遭っても、相談せず泣き寝入りする人が多いという。

岡山

清心女子大生がネットパトロール

"問題広告"若者目線で指摘

"問題広告"について意見交換するノートルダム清心女子大の安藤楓さん（奥左から2人目）と渡辺さん（奥右）

NPOと連携「危機意識高めたい」

被害を防ぐ方法を探るため、同大地域連携・SDGs推進センターと連携。学生は6月から情報収集などを続けてきた。この日は4人が授業の合間を縫って入れ替わりで出席。「ロゴが本物と違う」「日本語がおかしい」「金額が示されていない」と問題点を指摘した。消費者問題を研究課題にしている渡辺楓さん（21）は「活動を通じ広告の細かい点まで確認し、すぐに信じなくなった。若い世代の危機意識を高めるために協力できれば」と話した。

同ネットと同大は今後も活動を継続していく。個別相談は消費者ネットおかやまのホームページから受け付けている。（斎藤章一朗）

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2024年1月26日 山陽新聞朝刊 24ページ

『山陽新聞』2024年1月26日

総社

市役所で就業体験の8大学生

課題解決へ市に提言

総社市役所でインターンシップ（就業体験）に取り組んだ県内8大学の学生たちが市に提言を行う会が、市内で開催されている。業務に携わった体験を踏まえ、地域課題解決への一度にインターンシップの受け入れを始め、23年度は計79人が1人5日間、まちづくりや産業、福祉といった希望する分野の部署で働いた。会はその成果報告として大学ごとに開いており、6日には今回初めて取りアイデアをまとめており、市は優れた提言を3月に表彰するほか、事業化も検討する。

市は参加する学生、指導する職員の資質向上を目的に2009年度から計1～3年生11人が発表した。

ある学生は「奨学金を受けた学生が3年以上在住・在勤すれば、市が返済額の半分を負担する。若年層の定住が進み、地域経済活性化にもつながる」との案を披露。別の学生は特産・赤米と健康づくりを組み合わせて「赤米で歯ごたえのあるパンを作り、幼児や高齢者に食べてもらえば、そしゃく力が高まる」と提案していた。

会は昨年11月から今月までの予定。いずれも片岡聡一市長や幹部職員らが出席して耳を傾けている。（寺尾彰啓）

提言を行うノートルダム清心女子大の学生（奥側）＝6日、総社市中央、市保健センター

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2024年2月10日 山陽新聞朝刊 21ページ

『山陽新聞』2024 年 2 月 10 日

2024 そうじゃ吉備路マラソン

岡山県内外から1万2000人を超えるエントリーがあった「2024そうじゃ吉備路マラソン」。5年ぶりに新型コロナウイルス禍以前と同じ7種目で雌雄を競う。大会を支える学生ボランティアや走者の安全を見守るメディカルサポートランナー、ゲストランナーを紹介する。

安全安心 大会支える

学生231人 初のボランティア

自分の実力を試すノートルダム清心女子大の学生ボランティア

市と連携協定7大学

総社市と連携協定を結んでいる岡山県内7大学の学生計231人がボランティアとして初めて参加し、大会運営をサポートする。学生たちは「また走りたい」と思ってもらえる大会にしようと意気込んでいる。

7大学は岡山県立、ノートルダム清心女子、関西学院、川崎医療福祉、倉敷芸術科学、吉備国際、岡山商科、環境の受け付けや交通案内、ゴール後の誘導などを幅広い業務を分担する。コース上の給水所では、県立大の学生が地元商店街婦人会の協力で作りした地元産セロリの漬物を配る新企画もある。

大会事務局は8日、37人が参加するノートルダム清心女子大（岡山市）で説明会を開催。完走証の渡りや記録計測用ICタグの回収など担当する業務を説明した。栄養学科1年の羽彩衣さん（20）＝総社市三須＝は「ランナーが気持ちよく走れるよう笑顔で接したい」と話した。（山内悠汰子）

『山陽新聞』2024 年 2 月 24 日

市PRキャラ・チュッピー

新衣装 農産品カラフル

森本さん（ノートルダム清心女子大）考案

総社

総社市のPRキャラクター・チュッピーの新しい衣装が出来上がった。スイートコーンやブドウといった市内の農産品をちりばめたカラフルなデザインで、ノートルダム清心女子大（岡山市）の文学部3年森本彩乃さん(20)が考案。総社市の魅力を発信するとともに、チュッピーのかわいらしさを引き立てている。

森本彩乃さん

衣装は市内で栽培が広がるスイートコーンがモチーフで、袖には「特産のブドウをあしらった。頭には産地となっているセロリをイメージした冠をかぶり、足元は栽培が行われている古代米・赤米にちなんだ靴。特産の白桃をかたどったポシェットを斜めがけしている。森本さんは「豊富さを一目で理解できるよう心がけた。市の素晴らしさ、チュッピーの魅力が多くの人に伝われば」と期待する。

市と同大の連携協定に基づく取り組みで、昨秋、学生が考えた3案でインターネット投票を行って決めた。46都道府県から576票

総社市の農産品をちりばめたチュッピーの新衣装

『山陽新聞』2024年3月29日

２．ナミュール・ノートルダム修道女会国連オフィス・ブログ SDGs 記事（訳）

2019 年度の本センター設立時から、本学設立母体のナミュール・ノートルダム修道女会国連オフィスのブログ「SNDatUN」（https://sndatun.wordpress.com/）の SDGs 関連記事を翻訳し、実績報告書に掲載する取り組みを続けています。ご了承いただいた元国連オフィス代表の Sr. Grace Amarachi Ezeonu に感謝いたします。なお訳文は英語英文学科 3 年那須千花さんによるもので、センター長によるチェックを経たものです。

教育：持続可能な開発目標のための責務

投稿：2023 年 9 月 26 日　シスター　Isabelle Izika

持続可能な開発とは、「将来の世代が自らのニーズを満たす能力を損なうことなく、現在のニーズを満たす開発」と定義されています。

元国際連合事務総長の潘基文（パン・ギムン）氏は、以下のように説明しました。「今日、私たちは未来を握っています。我々は共に、孫の世代から、なぜ私たちが正しいことをせず、なぜ彼らが私たちの怠惰のせいで苦しまなければならないのか、決して尋ねられないようにしなければなりません。」要するに、持続可能な開発とは、将来の世代にとって暮らしやすい世界を遺すため、現在の世代に今日から行動を起こすよう呼びかけることです。

2000 年にミレニアム開発目標（MDGs）が採択されて以来、そして 2015 年の「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」ではより強く、教育とは一人一人が可能性を発揮し、国際社会が世界の進歩を促進するために必要不可欠な資産であると認識されています。

あらゆる形態での、あらゆる年齢層への教育活動に貢献する女性修道会として、国家レベルの教育政策に影響を与えるような機会は少ないかもしれませんが、私たちの多種多様な教育の場面（学校、保健センター、キリスト教運動など）において、持続可能な開発目標に基づいた具体的な行動を起こすことは可能です。コンゴ民主共和国や、ノートルダム・ド・ナミュール修道女会が奉仕している他の国々では、農業生産の減少や、それに伴う農村部の人々の健康状態の悪化などといった人間活動が環境に及ぼす影響に基づいて、気候変動についての議論の場を設けることが可能です。また、組織を問わず、森林再生活動を開始することで環境破壊の現状を改善することも可能です。持続可能な開発目標を私たちの生活環境で達成するためには、教育が不可欠です。より詳しくは↓

●あなたの省庁が SDGs を推進しているかどうかご存じですか？

● SDGs の中で最も多く取り組んだものはどれですか？

● SDGs 達成のためのあなたの行動様式は何ですか？

●あなたは仕事で「誰も置き去りにしない」ことの重要性を認識していますか？

●あなたの暮らす社会では、誰がしばしば「置き去りにされている」と感じますか？

（写真：Marie Josephine Ibanda, ナミュール・ノートルダム修道女会）

ナミュール・ノートルダム修道女会のシスターたちの SDGs への献身

投稿：2023 年 9 月 19 日　シスター Isabelle Izika

ナミュール･ノートルダム修道女会は､貧困（SDG １)､健康（SDG ３)、教育（SDG ４）への従事に長い伝統を持っています。最近ではアフリカの農村部に水と電気を供給するため、グローバルな南北協力プロジェクトを動員することで（SDG17)、SDG ６（飲料水へのアクセス）と SDG ７（再生可能エネルギー）の達成を目指すプロジェクトを展開してきました。“The Power of the SUN”（太陽の力）と呼ばれる太陽光発電プロジェクトは､まず米国マサチューセッツ州イプスウィッチのクビリー･アーツ・アンド・アース・センターで試験的に実施された後、コンゴ民主共和国とナイジェリアの両コミュニティに設置され、電力、通信技術、浄水、衛生設備を提供しました。 このプロジェクトは、ナミュール・ノートルダム修道女会のコミュニティのみならず、医療機関や教育機関、他の修道院や地域住民にもサービスを提供しています。さらに、今日、オハイオ管区のナミュール・ノートルダム修道女会による“pure water project”（きれいな水プロジェクト）は、ミッション・パートナーの協力のもとで、ジンバブエ、ケニア、ブラジル、ペルーのノートルダム寺院に、きれいな水を提供しています。このように、ナミュール・ノートルダム修道女会のシスターたちは､SDGs を広く普及させるために､他の機関とパートナーシップを組んでいます。

国際連合加盟国による SDG サミット 2023

投稿：2023 年 11 月 12 日　シスター Isabelle Izika

国際連合が、2023 年 9 月 18 日から 19 日にかけて、ニューヨークの国連本部で SDG サミットを開催します。これは、国連総会の開催期間にあたります。このハイレベル会合には、国連加盟国に加え、民間セクターおよび市民社会や、女性や若者の非政府関係者も参加します。本会合への参加者らは、SDGs 目標達成の状況について包括的なレビューを実施し、世界が直面している複数の連動する危機がもたらす影響に対応します。そして、目標年である 2030 年までの残りの 7 年間で SDGs を達成するための道筋を明確にするため、変革的でより迅速なアクションについて、高度な政治的指針を提供します。これは、公的な宣言として正式に発表されることになっています。

国際連合　持続可能な開発目標

投稿：2023 年 9 月 5 日　シスター Isabelle Izika

「人権に基づいた開発アプローチは、私たちの安全とレジリエンスを構築する強力なツールです。それは、差別のリスクに最も晒されている人々に焦点を当てています。そしてそれは、2030 アジェンダの達成に向けて、不平等を減らし軌道修正をするための最善の方法なのです」―ミチェル・バチェレ

中間点での実績評価

2015 年に国連加盟国が持続可能な開発目標（SDGs）に合意した際、加盟国は 2030 年までに自国での SDGs の実現に取り組むことを約束しました。とりわけ目標 17 は、「持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップの活性化」を求めています。これは、野心的な SDGs のアジェンダを促進するためのものであります。このハイレベル政治フォーラム（HLPF）は、SDGs の実現に向けた加盟国の取り組みの進捗状況を監視することにより、持続可能な開発のための 2020 アジェンダのフォローアップとレビューを行う重要な国際フォーラムです。今年は、目標年である 2030 年までに、国連アジェンダを達成するにあたっての中間地点となっています。このハイレベル政治フォーラムは 7 月 10 日から 17 日まで、経済社会理事会（ECOSOC）の後援のもとで開催され、特に SDG 6、7、9、11、17 の達成に向けた各国政府の取り組みの進捗状況を確認することを目的としています。

2015 年に国際連合が SDGs を採択したにもかかわらず、多くの政府が不足していたことが判明しました。SDGs の開始により、国際連合の審議におけるもっとも重要なテーマは「誰一人取り残さないこと」となりました。進捗レポート（https://hlpf.un.org/sites/default/files/2023-06/SDG%20Progress%20Report%20Special%20Edition_1_0.pdf）

「今日、各国政府は SDGs 達成に向けてどのような取り組みを行っているか」

中間報告では、SDGs の達成にほとんど進展がないことが明らかになりました。その進展は、気候変動、紛争、食糧危機、経済危機、そして世界的な新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって妨げられてきました。各国政府も、必要な財源についての約束が守られていないことに不満を抱いています。実質的な進展がないこの現状は、全ての国や人々を危険にさらしています。国連加盟国は今回のフォーラムで、これからの 7 年間で SDGs を実施するために一層努力することを、改めて約束しました。またそれらの加盟国は、国連総会が 2023 年 9 月にニューヨークで開催される SDGs サミットへの支持も表明しました。

政府による説明責任報告

例年、多くの加盟国が SDGs の自国の進捗状況について報告をしています。それらの報告を聞くことは大変有意義なものでした。それらの報告は、各国政府がどのように自国を組織しているのかという点や、その長所や短所となる点、また各国政府がどのように他国から効果的な実践方法を取り入れ、自国の取り組みに生かしているのかという点を理解するのに役立ちました。SDGs の実施に関する進捗報告を行った 39 か国の中には、ナミュール・ノートルダム修道女会のシスターが奉仕する、ベルギーとコンゴ民主共和国の 2 か国が含まれていました。これらの国のように「自発的国別レビュー」を行う国は、国民に対して、「政府が何を実行して達成したのか聞き、自身の経験と比較する」という機会

を提供しています。それが実現すれば、国民は自国の政府に対して、さらに努力し、真剣に公約に取り組むよう叱責できる立場になります。よって、この中間報告は、国連が加盟国をどのように監視し、進展を促しているかを示すものとなっています。

「コンゴ民主共和国はSDGsの達成軌道に乗っていません。新型コロナウイルスと、国全体に影響を及ぼしている戦争のせいで、SDGsの全ての目標において進捗が遅れています。しかし、我々の国では鉱物資源のおかげで経済が向上しました。さらに、政府は基礎教育の無償化といった教育分野の構造改革や、妊婦と5歳未満の子供への無料の医療提供を行いました。また、都市部と農村部の両方の地域で、水道、電気、道路、交通などの全体的なインフラの向上に努めています。」（写真：コンゴ民主共和国による自発的国別レビュー）

「ベルギー政府はSDGs達成に向けて前進していますが、まだ十分でありません。 政府は課題を認識しており、それらを乗り越えるために努力しています。地方自治体や市民社会、女性や若者を含むすべての関係者とともに、この報告を作成できたことを嬉しく思っています。 様々な投資を行い、それぞれがSDGs達成に貢献できるよう努めています。」（写真：ベルギーによる自発的国別レビュー）

３．2023 年度 生涯学習センター「清心 felice」講座の記録

	開催日	講演・講座名	講　師
公開講座			
SDGs 講座	11 月 18 日（土）	誰一人取り残されない社会を目指して：[基調講演] 大西連／[実践報告] 川元みゆき／［ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ］ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：石原達也　ﾊﾟﾈﾘｽﾄ：大西連、川元みゆき、矢内悟	
防災／ SDGs 講座	9 月 2 日（土）	地域の防災をステップアップ―みんなで取り組む地区防災計画―	磯打千雅子
	9 月 16 日（土）	住民の生命を守るために―ゼロから取り組んだ“地区防災計画”―	佐々木裕子
	10 月 14 日（土）	地域と共に取り組む岡山市におけるインクルーシブ防災	近藤真吾
インクルーシブ講座	9 月 2 日（土）	身近なコトから理解する―インクルーシブ社会の障害学入門―	水内豊和
	11 月 11 日（土）	探究する学びをつくるプロジェクト型学習とインクルーシブ教育	藤原さと
	12 月 2 日（土）	インクルーシブ教育への挑戦―新しい学校をつくるときに考えておきたいこと―	中川綾
	2024 年 2 月 17 日（土）	インクルーシブ教育のかたちを探究する―臨床心理学の視点から―	日下紀子
生涯学習講座			
いきがいの人間学	7 月 15 日（土）	ケアを生きる私たち	﨑川修
	7 月 22 日（土）	人間的成長とケア	
	8 月 5 日（土）	悲嘆と苦悩をこえて―ケアとつながりの可能性―	
聖書講座	7 月 6 日（木）	生誕 100 年の遠藤周作『イエスの生涯』で聖書を読む 第 1 回～ 6 回	山根道公
	8 月 3 日（木）		
	9 月 7 日（木）		
	10 月 5 日（木）		
	11 月 2 日（木）		
	12 月 7 日（木）		

４．2023 年度 産学連携センター事業の記録（一部）

契約関係	企業等との共同研究契約締結　5 件 企業等との受託研究契約締結　1 件 　その他、継続契約　2 件
相談等	企業等からの共同研究等相談受付　6 件 　その他相談受付　13 件
各種セミナー参加	おかやまバイオアクティブ研究会　総会・シンポジウム参加 岡山県食品新技術研究会　総会・特別講演会 第 28 回岡山リサーチパーク研究・展示発表会 【川崎医科大学主催】KMS メディカル・アーク 2024　参加
企業・産業界と連携しての教育・学生連携関連の活動	「晴々ロマン」商標登録について検討
	地元企業・団体と「食コラボ」試食発表会
	『TSUNAGU』（教員研究紹介冊子）を県内商工会議所・包括連携先他へ郵送・持参
	一般社団法人 岡山湯郷 Belle との連携：運営ボランティア・観戦他
	一般社団法人 JAF（日本自動車連盟）岡山支部との連携：自転車ヘルメット着用
	倉敷商店街振興連盟との連携：「宵山祭」の運営・出店企画
	NPO 法人消費者ネットおかやまとの連携：Youtube 広告パトロールなど
	㈱天満屋との連携：商品企画活動

地域連携･SDGs推進センター実績報告書［2023（令和5）年度］

2024年7月発行

編集・発行　ノートルダム清心女子大学　地域連携・SDGs推進センター
〒700－8516　岡山県岡山市北区伊福町二丁目16番９号
TEL 086－252－7054
FAX 086－252－7044

印　　刷　有限会社　ダイニ印刷
〒700－0961　岡山県岡山市北区北長瀬本町13番26号